

Sun SPARC Enterprise™ M8000/M9000 サーバー

プロダクトノート XCP 1092 版



Part No. 821-2791-10
2010 年 5 月, Revision A

Copyright © 2010 Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

富士通株式会社は、本製品の一部に対して技術提供および調査を行いました。

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複製、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. Government Rights. Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065 および富士通株式会社 〒211-8588 神奈川県川崎市中原区上小田中 4-1-1, Japan.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性 (redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社ならびに富士通株式会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle と Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

富士通および富士通のロゴマークは、富士通株式会社の登録商標です。

AMD, Opteron, AMD ロゴ, AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。Intel, Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は X/Open Company, Ltd. からライセンスされている登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社ならびに富士通株式会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社ならびに富士通株式会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。



リサイクル
してください



Adobe PostScript

目次

はじめに vii

1. Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバプロダクトノート XCP 1092 版 1
 - XCP 1090、1091、および 1092 の新機能 1
 - Active Directory および LDAP/SSL 2
 - Active Directory をサポートするための XSCF の設定 4
 - LDAP/SSL をサポートするための XSCF の設定 5
 - proxyuser システムアカウント 5
 - エアフローインディケータ 5
 - XCP のアップグレードおよびダウングレード 6
 - XCP 1090、1091、または XCP 1092 へのアップグレード 6
 - XCP 1050 より前のバージョンからのアップグレード 6
 - 特定タイプの XCP アップグレード実施後に必要となるドメイン再起動 7
 - XCP ファームウェアのダウングレード 7
 - ファームウェア、オペレーティングシステム、およびブラウザの最小要件 8
 - Solaris パッチ要件 9
 - Solaris 10 5/09 (SPARC64 VII 2.88 GHz プロセッサを使用) 9
 - Solaris 10 10/08 (SPARC64 VII 2.88 GHz プロセッサを使用) 9
 - Solaris 10 5/08 (SPARC64 VII 2.88 GHz プロセッサを使用) 9

Solaris 10 5/08 (SPARC64 VII 2.52 GHz プロセッサまたは SPARC64 VI プロセッサ、あるいは両方を使用)	10
Solaris 10 8/07 (SPARC64 VII 2.88 GHz プロセッサを使用)	10
Solaris 10 8/07 (SPARC64 VII 2.52 GHz プロセッサを使用)	10
Solaris 10 8/07 (SPARC64 VI プロセッサを使用)	11
Solaris 10 11/06	11
Solaris パッチの入手方法	12
Emulex PCI Express (PCIe) カードのパッチ	12
QLogic PCIe カードのパッチ	13
機能の問題と制限事項	13
SPARC64 VII プロセッサに関する制限事項	13
一般的な機能の問題と制限事項	13
追加情報および手順	15
システムへのログイン	15
WAN ブートサーバーからのブート	16
Sun Java Enterprise System	16
▼ Web Console SMF サービスを有効にする方法	17
▼ システム内の縮退メモリーを識別する方法	17
2. ハードウェアに関する情報	19
ハードウェアに関する問題と回避方法	19
単一の J4200 JBOD ストレージアレイからの複数のシステムのブート	19
DVD ドライブと <code>cfgadm</code>	20
Sun Crypto Accelerator 6000 カード	20
U320 PCIe SCSI カード	20
ハードウェアドキュメントの変更予定	21
環境条件「環境条件」の修正を示す場合	22

静電気防止に関する注意事項	23
静電気を除去する方法	23
CMU および IOU の静電気の除去	24
接地ポートの接続位置	28
外形寸法と重量	31
冷却 (空調) 条件	32
電気仕様	33
CPU の種類とサーバーの最大消費電力	34
電気仕様	35
3. ソフトウェアに関する情報	37
XCPの問題と回避方法	37
Solaris OS に関する問題と回避方法	38
サポートされているすべてのリリースの Solaris OS に関する問題	38
Solaris 10 10/09 で修正された Solaris の問題	42
Solaris 10 5/09 で修正された Solaris の問題	43
Solaris 10 10/08 で修正された Solaris の問題	44
Solaris 10 5/08 で修正された Solaris の問題	47
Solaris 10 8/07 で修正された Solaris の問題	51
ドキュメントの変更予定	54
『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF リファレンスマニュアル』	54
『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド』	57

はじめに

このプロダクトノートには、XCP 1090、XCP 1091、および XCP 1092 の各ファームウェアリリースにおける、Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバーのハードウェア、ソフトウェア、ファームウェア、およびドキュメントに関する重要な最新情報が記載されています。このドキュメントは、コンピュータネットワークに関する実用的な知識と、Oracle Solaris オペレーティングシステムに関する高度な知識を持つ、経験のあるシステム管理者を対象としています。

一部のサーバー名は、読みやすいように省略されています。たとえば、SPARC Enterprise M9000 サーバーまたは簡単に M9000 サーバーと記載されている場合、正式な製品名は Sun SPARC Enterprise M9000 サーバーです。

注 – プロダクトノートのほうが発行頻度が高いため、原則的にプロダクトノートの内容が他の製品ドキュメントの内容に優先します。ただし、内容に矛盾がある場合は、それぞれのドキュメントのタイトルページにある発行日を比較してください。

関連ドキュメント

関連ドキュメントについては、次の表を参照してください。これらのドキュメントはすべてオンラインで入手できます。ix ページの「[関連ドキュメントの参照先](#)」を参照してください。

注 – 次のドキュメント内の用語集はすべて削除され、表に記載した別の用語集ドキュメントとして提供されています。

用途	タイトル
最新情報	『Sun SPARC Enterprise M3000 サーバプロダクトノート』 『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバプロダクトノート』 『Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバプロダクトノート』
概要	『Sun SPARC Enterprise M3000 サーバ製品概要』 『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ製品概要』 『Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ製品概要』
計画	『Sun SPARC Enterprise M3000 サーバ設置計画マニュアル』 『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ設置計画マニュアル』 『Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ設置計画マニュアル』
安全性/適合性	『Sun SPARC Enterprise M3000 Server Safety and Compliance Guide』 『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 Servers Safety and Compliance Guide』 『Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 Servers Safety and Compliance Guide』
ご使用の手引き	『Sun SPARC Enterprise M3000 サーバはじめにお読みください』 『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバはじめにお読みください』 『Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバはじめにお読みください』 – 出荷用キットにも含まれています。
計画/設置	『Sun SPARC Enterprise Equipment インチラック搭載ガイド』 (Sun Rack 1000、900、および Sun Rack II)
設置	『Sun SPARC Enterprise M3000 サーバインストールレーションガイド』 『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバインストールレーションガイド』 『Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバインストールレーションガイド』 – 出荷用キットにも含まれています。
保守	『Sun SPARC Enterprise M3000 サーバサービスマニュアル』 『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバサービスマニュアル』 『Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバサービスマニュアル』

用途	タイトル
用語集	『Sun SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ用語集』
ソフトウェア管理	『Sun SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド』
ソフトウェア管理	『Sun SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF リファレンスマニュアル』
ソフトウェア管理	『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ Dynamic Reconfiguration (DR) ユーザーズガイド』
ソフトウェア管理	Sun Management Center (Sun MC) ソフトウェア追補マニュアル
キャパシティオンデマンド (COD) の管理	『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバキャパシティオンデマンド (COD) ユーザーズガイド』

関連ドキュメントの参照先

ハードウェアドキュメント:

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sparc.m3k~m3000-hw?l=ja#hic>
<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sparc.m4k~m4000-hw?l=ja#hic>
<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sparc.m5k~m5000-hw?l=ja#hic>
<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sparc.m8k~m8000-hw?l=ja#hic>
<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sparc.m9k~m9000-hw?l=ja#hic>

ソフトウェアドキュメント:

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sparc.m9k~m9000-sw?l=ja#hic>

Oracle Solaris オペレーティングシステムのドキュメント:

<http://docs.sun.com>

ドキュメント、サポート、およびトレーニング

機能	URL
ドキュメント	http://www.sun.com/documentation/
サポート	http://jp.sun.com/support/
トレーニング	http://www.sun.com/training/

ドキュメントのフィードバック

このドキュメントについてご意見がありましたら、<http://docs.sun.com> の Feedback[+]リンクをクリックしてください。ご意見をお寄せいただく際には、下記のタイトルと Part No. を記載してください。

『Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバプロダクトノート XCP 1092 版』
(Part No. 821-2791-10)。

第1章

Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバープロダクト ノート XCP 1092 版

このドキュメントでは、XCP 1090、XCP 1091、および XCP 1092 ファームウェアリリースでの変更の内容を示します。この章では、次の内容について説明します。

- [1 ページの「XCP 1090、1091、および 1092 の新機能」](#)
- [8 ページの「ファームウェア、オペレーティングシステム、およびブラウザの最小要件」](#)
- [9 ページの「Solaris パッチ要件」](#)
- [1 ページの「XCP 1090、1091、および 1092 の新機能」](#)
- [13 ページの「機能の問題と制限事項」](#)
- [15 ページの「追加情報および手順」](#)

XCP 1090、1091、および 1092 の新機能

- XCP 1092 リリースでは、XCP 1091 リリースで導入された、Active Directory 機能および LDAP/SSL 機能に関する情報、ならびに関連するマニュアルページが更新されています。
- XCP 1092 ファームウェアは、新しいコマンド `setpacketfilters(8)` および `showpacketfilteres(8)` をサポートする最初の XCP リリースです。man(1) コマンドを使用して、新しいマニュアルページを参照してください。

注 - このドキュメントの 2010 年 5 月の改訂版では、[8 ページの「ファームウェア、オペレーティングシステム、およびブラウザの最小要件」](#) に関する情報が更新されています。

- XCP 1091 ファームウェアでは、Active Directory 機能および LDAP/SSL 機能が導入されました。2 ページの「Active Directory および LDAP/SSL」、これらのコマンドのマニュアルページ、および 54 ページの「ドキュメントの変更予定」を参照してください。
- XCP 1090 ファームウェアは、エアフローインディケータをサポートする最初の XCP リリースです。詳細については、5 ページの「エアフローインディケータ」を参照してください。
- XCP 1090 ファームウェアは、新しい XSCF コマンド showdateoffset(8) をサポートする最初の XCP リリースです。詳細については、マニュアルページを参照してください。
- XCP 1090 ファームウェアは、SPARC64 VII 2.88 GHz プロセッサをサポートする最初の XCP リリースです。これより前の XCP ファームウェアリリースは、高速化されたバージョンであるこのプロセッサをサポートしていません。このプロセッサは、速度以外のあらゆる面において、機能上すべての SPARC64 VII プロセッサと同一です。8 ページの「ファームウェア、オペレーティングシステム、およびブラウザの最小要件」を参照してください。

Active Directory および LDAP/SSL

XCP 1091 リリースでは、Active Directory® 機能および LDAP/SSL 機能のサポートが実装されました。これらの機能に対する一部の変更は、XCP 1092 リリースで導入されたものです。この項では、これらの機能に関する最新情報を示します。

- Active Directory は、Microsoft™ Corporation が提供する分散型のディレクトリサービスです。LDAP ディレクトリサービスと同様に、ユーザーの認証に使用されます。
- LDAP/SSL (旧称 LDAP over SSL) では、Secure Socket Layer (SSL) 技術によって LDAP ユーザーのセキュリティが強化されます。ユーザーの認証には LDAP ディレクトリサービスを使用します。

注 – セキュリティ上の理由から、XSCF では Active Directory サーバーまたは LDAP/SSL サーバーとの通信に LDAP over SSL だけが使用されます。

Active Directory と LDAP/SSL のいずれも、ユーザーの資格情報を認証する機能とともに、ネットワーク接続されたリソースに対するユーザーのアクセスレベルを認可する機能を提供します。システムリソースにユーザーがアクセスする前に、認証を使用してユーザーの ID を確認し、ユーザーに特定のアクセス権限を付与することによって、ネットワーク接続されたリソースに対するユーザーのアクセス権を制御します。

ユーザーの権限は、XSCF 上で設定されるか、ネットワークドメイン内の各ユーザーのグループメンバーシップに基づいてサーバーから取得されます。ユーザーは、複数のグループに所属できます。Active Directory または LDAP/SSL では、ユーザードメインの設定順序に従ってユーザーを認証します。(ユーザードメインとは、ユーザーの認証に使用される認証ドメインです)。

認証が完了した後は、ユーザーの権限を次の方法で決定できます。

- 最も単純な場合は、XSCF での Active Directory または LDAP/SSL の設定を通じて、ユーザーの権限を直接決定できます。Active Directory および LDAP/SSL には、いずれも `defaultrole` パラメータが存在します。このパラメータが設定されている場合、Active Directory または LDAP/SSL を通じて認証されるすべてのユーザーに対して、このパラメータで設定されている権限が割り当てられます。Active Directory または LDAP/SSL サーバでユーザーを設定するときに必要なのは、パスワードのみであり、グループメンバーシップは関係しません。
- `defaultrole` パラメータが設定されていない場合、ユーザーの権限は、ユーザーのグループメンバーシップに基づいて Active Directory または LDAP/SSL サーバから取得されます。XSCF 上で、Active Directory または LDAP/SSL サーバにある対応するグループ名を使用して `group` パラメータを設定する必要があります。各グループには、XSCF 上で設定されている権限が関連付けられます。ユーザーが認証されると、ユーザーのグループメンバーシップを使用してユーザーの権限が決定されます。

設定できるグループには、`administrator`、`operator`、および `custom` という 3 つのタイプがあります。`administrator` グループまたは `operator` グループを設定する場合、必要となるのはグループ名のみです。

`administrator` グループには、`platadm`、`useradm`、および `auditadm` 権限が関連付けられます。`operator` グループには、`platop` および `auditop` 権限が関連付けられます。`custom` グループを設定するには、グループ名と権限の両方が必要です。グループのタイプごとに、グループを 5 つまで設定できます。複数のグループに割り当てられたユーザーが受け取る権限は、それらのグループに関連付けられているすべての権限を合計したものになります。

これらの新しい機能をサポートするため、XSCF Web の Settings メニューに、2 つの新しい設定画面 (Active Directory および LDAP/SSL) が追加されました。リモートユーザーは、Active Directory または LDAP/SSL のいずれかで認証されると、XSCF Web にログインして XSCF Web を使用できます。

注 - Active Directory ユーザーまたは LDAP/SSL ユーザーは、ユーザー公開鍵ではなく SSH とパスワードを使用して XSCF ネットワークにログインしてください。公開鍵をすでにアップロードしている場合は、次のコマンドを使用して削除します。

```
XSCF> setssh -c delpubkey -a -u proxyuser
```

Active Directory をサポートするための XSCF の設定

setad(8) コマンドおよび showad(8) コマンドを使用して、Active Directory の設定をコマンドラインから設定および表示できます。

デフォルトでは、Active Directory のサポートは無効になっています。Active Directory のサポートを有効にするには、次のコマンドを使用します。

```
XSCF> setad enable
```

Active Directory のサポートを無効にするには、次のコマンドを使用します。

```
XSCF> setad disable
```

Active Directory のサポートが有効または無効のいずれになっているかを表示するには、次のコマンドを入力します。

```
XSCF> showad
```

setad コマンドをさまざまなパラメータとともに使用して、Active Directory を設定します。たとえば、このコマンドを使用して、1 つのプライマリ Active Directory サーバと 5 つの代替 Active Directory サーバを設定する、グループ名と権限を割り当てる、特定のユーザードメインを設定する、診断メッセージのロギングを制御することなどができます。ユーザードメインは、XSCF 上で setad userdomain コマンドを使用して明示的に設定することも、ログインプロンプトに `user@domain` 形式で入力することもできます。

setad(8) および showad(8) のマニュアルページを参照してください。

注 – Active Directory を設定および使用した後は、ファームウェアをダウングレードしないでください。ただし、以前のリリースにダウングレードする必要がある場合は、ダウングレードの直後に

restoredefaults -c xscfu コマンドを実行してください。

LDAP/SSL をサポートするための XSCF の設定

setldapssl(8) コマンドおよび showldapssl(8) コマンドを使用して、LDAP/SSL の設定をコマンドラインから設定および表示できます。これらのコマンドは、setad(8) コマンドおよび showad(8) コマンドで Active Directory を対象として実行する内容を LDAP/SSL に実行するものであり、同一のパラメータを数多くサポートしています。

詳細については、setldapssl(8) および showldapssl(8) のマニュアルページを参照してください。

proxyuser システムアカウント

Active Directory および LDAP/SSL をサポートするために、XCP 1091 リリースでは proxyuser という新しいシステムアカウントが追加されています。Active Directory 機能または LDAP/SSL 機能を使用する場合は、事前に同じ名前のユーザーアカウントがないことを確認する必要があります。同じ名前のユーザーアカウントがあった場合は、deleteuser(8) コマンドを使用してアカウントを削除し、XSCF をリセットしてからこれらの機能を使用します。

エアフローインディケータ

XCP 1090 で追加されたエアフローインディケータでは、SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバの動作中に放出される排気量を確認します。

エアフローインディケータの値は、本体装置からの排気量を示します。この値には、周辺装置は含まれていません。排気量を表示するには、showenvironment air コマンドを使用します。

```
XSCF> showenvironment air
Air Flow:5810CMH
```

注 - エアフローモニタの測定値は、参照専用です。

showenvironment(8) コマンドの詳細については、マニュアルページを参照してください。

SNMP エージェント機能を使用して排気データを取得することもできます。SNMP エージェント機能を使用して排気データを取得するには、最新の XSCF 拡張 MIB 定義ファイルを SNMP マネージャにインストールします。XSCF 拡張 MIB 定義ファイルの詳細については、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド』を参照してください。

XCP のアップグレードおよびダウングレード

XCP 1090、1091、または XCP 1092 へのアップグレード

ファームウェアのアップグレードについては、『Sun SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド』を参照してください。

注 - XCP ファームウェアをアップグレードした後で、`rebootxscf(8)` コマンドを使用して XSCF をリセットします。

XCP 1050 より前のバージョンからのアップグレード

XCP 1050 より前のバージョンを現在実行している場合は、XCP 1090、1091、または XCP 1092 に直接アップグレードすることはできません。最初に、中間バージョンである 1050 ~ 1070 (1050 と 1070 を含む) の XCP にアップグレードする必要があります。以前の XCP リリースへのアクセスについては、Oracle の担当者にお問い合わせください。

注 - `admin` という名前のアカウントがある場合は、XCP 1050 以降にアップデートする前に、`deleteuser(8)` コマンドを使用してそれらのアカウントを削除します。`admin` アカウント名は、XCP 1050 以降で予約されています。

特定タイプの XCP アップグレード実施後に必要となるドメイン再起動

XCP バージョン 1050 ~ 1070 (1070 を含む) から XCP 1090 または XCP 1091 へのアップデートの間に動作中であったドメインでは、Dynamic Reconfiguration (DR) を実行して SPARC64 VII プロセッサを追加または交換する場合、OpenBoot PROM ファームウェアをアップデートする必要があります。OpenBoot PROM ファームウェアは、XCP をアップデートし、ドメインを再起動するとアップデートされます。このため、SPARC64 VII プロセッサを追加したか交換したかにかかわらず、ファームウェアを最新の XCP リリースにアップデートした後は、すべてのドメインを再起動します。

XCP ファームウェアのダウングレード

XCP ファームウェアを以前のリリースにダウングレードしないでください。ただし、XCP 1092 ファームウェアを XCP 1091 リリースまたは XCP 1090 リリースに、あるいは XCP 1091 リリースを XCP 1090 バージョンにダウングレードする必要がある場合は、次のコマンドを実行して従来のスタイルの監査ログをクリアします。

```
XSCF> restoredefaults -c xscfu
```

ファームウェア、オペレーティングシステム、およびブラウザの最小要件

新規導入時の Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバーには、Solaris Operating System および Sun Java Enterprise System ソフトウェアがプレインストールされています。

表 1-1 に、SPARC64 VI プロセッサおよび SPARC64 VII プロセッサがサポートされているファームウェアおよびオペレーティングシステム (OS) の最初のバージョンを示します。

表 1-1 ファームウェアおよびオペレーティングシステムのバージョンの最小要件

プロセッサのタイプ	XCP の最小バージョン	オペレーティングシステムの最小バージョン
SPARC64 VI プロセッサ	XCP 1040	Solaris 10 11/06 (必須パッチ*適用済み) Solaris 10 10/08 (必須パッチなし)
SPARC64 VII 2.52 GHz プロセッサ	XCP 1070	Solaris 10 8/07 (必須パッチ*) Solaris 10 10/08 (必須パッチなし)
SPARC64 VII 2.52 GHz プロセッサ、8GB DIMM	XCP 1081	Solaris 10 8/07 (必須パッチ*) Solaris 10 10/08 (必須パッチなし)
SPARC64 VII 2.88 GHz プロセッサ	XCP 1090	Solaris 10 8/07 (必須の Solaris 10 10/09 パッチバンドル適用済み) Solaris 10 10/09 (必須パッチなし)

* 9 ページの「Solaris パッチ要件」を参照してください。
最新パッチリビジョンがあるかどうか、<http://sunsolve.sun.com>を確認してください。

注 – すべてのリリースについて、SunAlert パッチクラスタのインストールをお勧めします。また、Solaris 10 10/09 パッチバンドルは MU8 とも呼ばれています。

XSCF Web は、多くのウェブブラウザでサポートされます。このうち、XSCF Web の動作することが確認されているウェブブラウザは、表 1-2 のとおりです。

表 1-2 確認されたウェブブラウザのバージョン

ウェブブラウザ	バージョン
Firefox	2.0 および 3.0
Microsoft Internet Explorer	6.0、7.0、8.0

Solaris パッチ要件

この項では、M8000/M9000 サーバで必須となるパッチ、パッチバンドル、および Sun Alert パッチクラスタを示します。パッチ要件および特別なインストール手順については、必ずパッチの README を参照してください。

この項に示すパッチ ID は、インストールが必要なパッチの最小レベルを表しています。2 桁のサフィックスは、パッチの最小リビジョンレベルを表しています。最新パッチリビジョンがあるかどうか、<http://sunsolve.sun.com> を確認してください。パッチは、記載されている順序で適用します。

Solaris 10 5/09 (SPARC64 VII 2.88 GHz プロセッサを使用)

Solaris 10 10/09 パッチバンドルが必須で、SunAlert パッチクラスタが推奨されます。次のウェブサイトを参照してください。

<http://sunsolve.sun.com/show.do?target=patches/patch-access>

Solaris 10 10/08 (SPARC64 VII 2.88 GHz プロセッサを使用)

Solaris 10 10/09 パッチバンドルが必須で、SunAlert パッチクラスタが推奨されます。次のウェブサイトを参照してください。

<http://sunsolve.sun.com/show.do?target=patches/patch-access>

Solaris 10 5/08 (SPARC64 VII 2.88 GHz プロセッサを使用)

Solaris 10 10/09 パッチバンドルが必須で、SunAlert パッチクラスタが推奨されます。次のウェブサイトを参照してください。

<http://sunsolve.sun.com/show.do?target=patches/patch-access>

Solaris 10 5/08 (SPARC64 VII 2.52 GHz プロセッサまたは SPARC64 VI プロセッサ、あるいは両方を使用)

パッチ 137137-09 – SunOS 5.10: カーネルパッチ。

Solaris 10 8/07 (SPARC64 VII 2.88 GHz プロセッサを使用)

- Solaris 10 10/09 パッチバンドルが必須で、Sun Alert パッチクラスタが推奨されます。次のウェブサイト参照してください。
<http://sunsolve.sun.com/show.do?target=patches/patch-access>
- また、SPARC64 VII プロセッサが含まれるドメインには Solaris 10 8/07 OS を新規インストールできません。この問題には、次の 2 つの回避方法があります。
 - パッチがすべて適用されたイメージを作成し、Jumpstart を使用する。
 - OS のインストールを SPARC64 VI プロセッサのみが含まれたドメインで開始し、必要なパッチを追加した後、ドメインに SPARC64 VII プロセッサを追加する。

注 – 次のウェブサイトアクセスしてください。

<http://sunsolve.sun.com/search/document.do?assetkey=1-62-252447-1>

Solaris 10 8/07 (SPARC64 VII 2.52 GHz プロセッサを使用)

次のパッチは、SPARC64 VII 2.52 GHz プロセッサを搭載した本体装置上の Solaris 10 8/07 OS に対してのみ必要です。パッチは、記載されている順序で適用します。

1. 119254-51 – SunOS 5.10: インストールおよびパッチユーティリティーパッチ
2. 125891-01 – SunOS 5.10: libc_psr_hwcap.so.1 パッチ
3. 127755-01 – SunOS 5.10: Fault Manager パッチ
4. 127127-11 – SunOS 5.10: カーネルパッチ

Solaris 10 8/07 OS (パッチ 127127-11) は、通常の操作中にパニックまたはトラップすることがあります (CR 6720261)。この問題を回避するには、次のパラメータをシステム仕様ファイル (/etc/system) に設定する必要があります。

```
set heaplp_use_stlb=0
```

その後、ドメインをリブートしてください。

また、SPARC64 VII プロセッサが含まれるドメインには Solaris 10 8/07 OS を新規インストールできません。この問題には、次の 2 つの回避方法があります。

- パッチがすべて適用されたイメージを作成し、Jumpstart を使用する。
- OS のインストールを SPARC64 VI プロセッサのみが含まれたドメインで開始し、必要なパッチを追加した後、ドメインに SPARC64 VII プロセッサを追加する。

Solaris 10 8/07 (SPARC64 VIプロセッサを使用)

なし。

Solaris 10 11/06



注意 – Solaris 10 11/06 OS を実行する Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバーの場合、Sun Connection Update Manager を使用する前に、パッチ 123003-03 および 124171-06 をシステムにインストールする必要があります。これらのパッチは、<http://sunsolve.sun.com> から入手できます。

Solaris 10 11/06 OS には、次のパッチが必要です。これらの必須パッチを適用しても、Solaris 10 11/06 では SPARC64 VII プロセッサはサポートされません。次に示す順序でパッチをインストールします。

1. 118833-36 – 次に進む前にドメインをリブートしてください。
2. 125100-10 – その他のパッチ要件の一覧については、パッチの README ファイルを参照してください。
3. 123839-07
4. 120068-03
5. 125424-01
6. 118918-24
7. 120222-21
8. 125127-01 – 次に進む前にドメインをリブートしてください。
9. 125670-02
10. 125166-05

Solaris パッチの入手方法

Sunsm Connection Update Manager を使用して、必要に応じてパッチを再インストールするか、または最新の必須パッチのセットでシステムをアップデートできます。Sun Connection Update Manager の詳細については、次の URL にある『Sun Update Connection System Administration Guide』を参照してください。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/updconn.sys>

または、次のウェブサイトアクセスしてください。

<http://wikis.sun.com/display/SunConnection/Update+Manager>

インストール情報と README ファイルは、パッチのダウンロードに含まれています。

システムを登録し、Sun Connection Update Manager を使用して最新の Solaris OS パッチを入手するには、次の 2 つの方法があります。

- Update Manager GUI を使用したパッチの入手詳細については、前述のリンクにある Sun Update Connection のドキュメントを参照してください。
- `smpatch(1M)` コマンドを使用したパッチの入手詳細については、`smpatch(1M)` のマニュアルページ、または使用している Solaris のバージョンの一連のリファレンスマニュアルを参照してください。

Emulex PCI Express (PCIe) カードの パッチ

次に示す Emulex カードは、パッチ 120222-27 で提供されるドライバが必要です。

- Sun StorageTekTM Enterprise Class 4-Gigabit Dual-Port Fiber Channel PCIe HBA (部品番号 SG-XPCIE2FC-EM4)
- Sun StorageTek Enterprise Class 4-Gigabit Single-Port Fiber Channel PCIe HBA (部品番号 SG-XPCIE1FC-EM4)

QLogic PCIe カードのパッチ

次に示す QLogic カードは、パッチ 125166-10 で提供されるドライバが必要です。

- Sun StorageTek Enterprise Class 4-Gigabit Dual-Port Fiber Channel PCIe HBA (部品番号 SG-XPCIE2FC-QF4)
- Sun StorageTek Enterprise Class 4-Gigabit Single-Port Fiber Channel PCIe HBA (部品番号 SG-XPCIE1FC-QF4)

機能の問題と制限事項

ここでは、本リリース時点でわかっている問題および制限事項について説明します。

SPARC64 VII プロセッサに関する制限事項



注意 – SPARC 64 VII プロセッサをシャーシに搭載する前に、XCP ファームウェアおよび Solaris OS のアップグレードを完了しておく必要があります。

一般的な機能の問題と制限事項



注意 – Dynamic Reconfiguration (DR) とホットプラグの問題については、[38 ページの「Solaris OS に関する問題と回避方法」](#)を参照してください。

注 – Service Processor (SP) を Network Time Protocol (NTP) サーバとして使用しないでください。独立した NTP サーバを使用することによって、SP とドメインで時刻の一貫性を保つ上で最適な信頼性を得られます。NTP の詳細については、Sun Blueprint のマニュアル『Using NTP to Control and Synchronize System Clocks』(<http://www.sun.com/blueprints/0701/NTP.pdf>) を参照してください。

- 次のユーザーアカウント名は、システム用に予約されているため使用できません。
adm、admin、apache、bin、daemon、default、ldap、nobody、ntp、operator、proxyuser、root、rpc、rpcuser、sshd。
- XSCF ユーザーアカウントのユーザー名を LDAP ユーザー名と同じ名前にすることはできず、XSCF ユーザーアカウント番号 (UID) を LDAP UID 番号と同じ番号にすることはできません。
- 外部電源制御装置の外部電源制御インターフェースを使用するとき、次の通知信号はサポートされていません。
 - OS パニックまたは本体装置ハードウェア異常信号 (*CPUN/RTNU)
 - 本体装置ハードウェア異常信号 (電源異常、温度異常、ファン異常)
- XSCF を使用し、XCP をインポートまたはファームウェアをアップデートする場合、ウェブブラウザ上に Web session ID error が表示されることがあります。また、Autologout 設定でタイムアウト時間を 30 分以上で指定すると、Internal Server Error が表示されることがあります。現在のブラウザを閉じてから、新しいブラウザを開いて、XSCF Web に接続し直してください。
- この XCP リリースの場合、XSCF ブラウザユーザーインターフェース (XSCF Web) は、PCI ボックス管理機能をサポートしていません。
- XSCF Web を使用する前に、ポップアップブロックを無効にして、ブラウザにインストールされている検索ツールなどのプラグインを削除してください。
- XSCF-LAN はオートネゴシエーションに対応しています。XSCF-LAN と接続するネットワーク機器は、オートネゴシエーションモードに設定してください。この設定を行わず、XSCF-LAN と全二重固定で設定されているネットワーク機器を接続した場合、IEEE802.3 の規約によって、XSCF-LAN は半二重モードで通信します。これにより、ネットワークの通信速度が遅くなったり、通信異常が発生したりする場合があります。
- DR および ZFS ファイルシステムは相互運用性に問題があるため、M8000/M9000 サーバは、UFS ファイルシステムを使用してプレインストールされ、出荷されています。表 3-2 の CR 6522017 を参照してください。
- ドメインでサポートされるカードの数など、I/O オプションおよびストレージについては、次の Sun Cross Platform IO Support ページを参照してください。
<http://wikis.sun.com/display/PlatformIoSupport/Home/>
- CD-RW/DVD-RW ドライブユニットとテープドライブユニットは、同時に使用しないでください。
- 電源ケーブルは、二系統受電オプションなしの一系統受電サーバでは、冗長化されていません。すべての電源ケーブルは常時接続され、電源投入されていなければなりません。
- PCI ボックスを使用してホストサーバを外部ブートディスクドライブに接続することは、サポートされていません。

- 活性交換のために `addfru(8)` コマンドまたは `replacefru(8)` コマンドが使用された後、M8000/M9000 サーバ上で DR 操作が失敗することがあります (DR のために使用できないボードに関する誤ったメッセージが表示されます)。保守メニューで診断テストを実行せずに活性交換を行うと、この問題が発生します。この問題を回避するには、`addfru(8)` コマンドまたは `replacefru(8)` コマンドの保守メニューで診断を実行してください。復旧には、`testsrb(8)` コマンドを実行するか、`deletefru(8)` コマンドで CPU/メモリボードユニットを削除してから `addfru(8)` コマンドを再実行してください。
- `setsnmp(8)` コマンドおよび `showsnmp(8)` コマンドが、許可の失敗をユーザーに通知しないことがあります。このような障害が発生した場合、SNMP トラップホストが動作していることを確認し、正しいユーザー名を使用してコマンドを再実行してください。

追加情報および手順

ここでは、本リリース時点でわかっている追加の問題および制限事項について説明します。

システムへのログイン

標準的なデフォルトのログインのほかに、M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバは、`admin` と呼ばれる一時的なログインが可能な状態で出荷されます。これにより、シリアルポートを介したリモート初期ログインが可能になります。`admin` ユーザーの権限は `useradm` 限定であり、変更はできません。標準の UNIX ユーザー名/パスワード認証または SSH 公開鍵認証を使用して一時 `admin` としてログインすることはできません。一時 `admin` アカウントにパスワードはなく、またパスワードをこのアカウント用に追加することもできません。

デフォルトのユーザーとしてログインした後や、一時 `admin` としてのログインにより有効なパスワードと権限を与えられた最初のユーザーが登録された後には、一時 `admin` アカウントは無効となります。

デフォルトのログインが使用される前に一時 `admin` としてログインできない場合には、`showuser -l` コマンドを実行することにより、他の誰かが上記の操作を実行していないか確認してください。

WAN ブートサーバーからのブート

WAN ブートインストール方法を使用すると、HTTP を使用してワイドエリアネットワーク (WAN) 経由でソフトウェアのブートとインストールを行うことができます。WAN ブートサーバーから M8000/M9000 サーバーをブートできるようにするには、適切な実行可能ファイル wanboot をインストールし、OpenBoot™ バージョン 4.24.10 以降を使用して、必要なハードウェアがサポートされるようにする必要があります。

WAN ブートサーバの詳細については、使用している Solaris 10 OS のバージョンに対応する『Solaris 10 インストールガイド (ネットワークインストール)』を参照してください。Solaris 10 OS のドキュメントは次のウェブサイトにあります。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/solaris.10?l=ja>

実行可能ファイル wanboot をアップグレードしないと、本体装置でパニックが発生し、次のようなメッセージが表示されます。

```
krtld: load_exec: fail to expand cpu/$CPU
krtld: error during initial load/link phase
panic - boot: exitto64 returned from client program
```

Sun Java Enterprise System

Sun Java™ Enterprise System は、ソフトウェア投資を最大限に活用するソフトウェアサービスとライフサイクルサービスの包括的なセットです。ソフトウェアおよびインストール手順は、次のウェブアドレスにあります。

<http://www.sun.com/software/javaenterprisesystem/index.jsp>

ソフトウェアには、ご使用の本体装置に必須のパッチが含まれていない場合があります。ソフトウェアのインストール後、システムに必須パッチが存在するかどうかを確認する手順については、9 ページの「Solaris パッチ要件」を参照してください。

概要およびドキュメントについては、次のウェブサイトにアクセスしてください。

<http://www.sun.com/service/javaes/index.xml>

注 – Java Enterprise System 5 Update 1 をシステムにインストールすることによって発生する問題に対処するために、Web Console SMF サービスを有効にする必要が生じる場合があります。

▼ Web Console SMF サービスを有効にする方法

- 端末に root としてログインし、サービスを有効にします。

```
# svcadm enable svc:/system/webconsole:console
```

ソフトウェアの再読み込みが必要になった場合のダウンロードおよびインストール方法については、次のウェブサイトアクセスしてください。

<http://www.sun.com/software/preinstall>

ソフトウェアの最新コピーをダウンロードした場合は、使用している本体装置に必要なパッチがそのソフトウェアに含まれていないことがあります。ソフトウェアのインストール前に、システムに必須パッチが存在するかどうかを確認し、インストールする手順については、9 ページの「Solaris パッチ要件」を参照してください。

▼ システム内の縮退メモリーを識別する方法

1. XSCF にログインします。
2. 次のコマンドを入力します。

```
XSCF> showstatus
```

3. 次の例では、マザーボードユニット上の DIMM 番号 0A に縮退メモリーがあることがわかります。

```
XSCF> showstatus
MBU_A Status: Normal;
MEM#0A Status: Degraded
```


第2章

ハードウェアに関する情報

この項では、SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバのハードウェアに関する特記事項および問題点について説明します。

- 19 ページの「ハードウェアに関する問題と回避方法」
- 21 ページの「ハードウェアドキュメントの変更予定」

ハードウェアに関する問題と回避方法

単一の J4200 JBOD ストレージレイからの複数のシステムのブート

Sun Storage J4200 SAS JBOD アレイには、汎用 SAS コネクタが6個あります。FW バージョン 3A32 以降では、各コネクタを別々の SAS イニシエータに接続できるため、最大 6 台のシステムをアレイに接続できます。各システムは、アレイ上の個別のディスクをブートデバイスとして使用できます。J4200 アレイにはディスクが 12 個あるため、各ブートデバイスをミラーリングして信頼性を向上させることができます。J4200 アレイは、より安全な環境を提供するために、複数のゾーンに構成できます。

詳細については、次のウェブサイトにある Sun StorageTek Common Array Manager のソフトウェアドキュメントを参照してください。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/stor.arrmgr#hic?l=ja>

特に、次のドキュメントを参照してください。

- 『Sun StorageTek Common Array Manager ソフトウェアリリースノート 6.4.1』
- 『Sun StorageTek Common Array Manager ユーザーズガイドオープンシステム用』

DVD ドライブと cfgadm

Solaris の `cfgadm(1M)` コマンドを実行しても、SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ上のドメインから DVD ドライブが構成解除されない場合があります。

Volume Management Daemon (`vold`) を無効にしてから、`cfgadm(1M)` コマンドを使用して DVD ドライブを構成解除してください。`vold` を無効にするには、コマンド `/etc/init.d/volmgt stop` を実行してデーモンを停止します。デバイスを減設または増設してから、コマンド `/etc/init.d/volmgt start` を実行してデーモンを再起動します。

Sun Crypto Accelerator 6000 カード

Sun Crypto Accelerator (SCA) 6000 カードドライバの適切なバージョンを使用していない場合、SCA 6000 カードでホットプラグ操作を行うと、SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバでパニックまたはハングが発生するおそれがあります。SCA6000 ドライバおよびファームウェアのバージョン 1.1 の場合、必要なブートストラップファームウェアのアップグレードを行うと、ホットプラグ操作が可能になります。SCA6000 ドライバのバージョン 1.0 は、ホットプラグをサポートしていません。ホットプラグは使用しないでください。

U320 PCIe SCSI カード

U320 PCIe SCSI カード (部品番号 375-3357-01/02) は、Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバの PCI カセットではサポートされていません。部品番号 375-3357-03 以降を使用する必要があります。

ハードウェアドキュメントの変更予定

この項では、ドキュメントの出版後に判明したハードウェアに関する重要な最新情報および変更予定を示します。プロダクトノートの「ドキュメントの変更予定」などの項では、記述内の項タイトル、用語、表記を変更対象マニュアルのものに合わせる。

表 2-1 ハードウェアドキュメントの変更予定

タイトル	項番号	変更内容
『SPARC Enterprise M8000/ M9000 サーバサービスマニ ュアル』	6.5 項	「静電気防止に関する注意事項」の項を次の章に追加し ます。 • 第 6 章: 「CPU/メモリーボードユニット (CMU) および CPU と DIMM の交換」 • 第 7 章: 「I/O ユニット (IOU) の交換」 23 ページの「静電気防止に関する注意事項」を参照して ください。
	7.2 項	
『SPARC Enterprise M8000/ M9000 サーバ設置計画マニ ュアル』	1.2.1.2 項	表 1-3 「設置諸元 (外形寸法と質量) 重量に関する脚注を更新します。31 ページの「外形寸法と 重量」を参照してください。
	3.2.1 項	「冷却 (空調) 条件」 「諸元 (冷却/空調条件)」の表を更新します。32 ページの 「冷却 (空調) 条件」を参照してください。
	3.3 項	次の表にある消費電力および皮相電力の値を変更します。 • 表 3.5 「諸元 (単相電源条件)」 • 表 3.7 「諸元 (三相デルタ電源条件)」 • 表 3.8 「諸元 (三相スター電源条件)」 33 ページの「電気仕様」を参照してください。
	3.3.6 項	「CPU の種類とサーバの最大消費電力」 「CPU の種類とサーバの最大消費電力」の情報を更新 します。34 ページの「CPU の種類とサーバの最大消費 電力」を参照してください。
『SPARC Enterprise M8000/ M9000 サーバ製品概要』	1.2.2 項	表 1-3 「消費電力の例」 「消費電力の例」の表を更新します。35 ページの「電気 仕様」を参照してください。

環境条件「環境条件」の修正を示す場合

『Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ製品概要』の 1.2.1 項にある表を次の表 2-2 の情報で更新します。

表 2-2 環境条件

	動作時	非動作時	最適条件
周囲温度	5°C ~ 32°C (41°F ~ 89.6°F)	非梱包時: 0°C ~ 50°C (32°F ~ 122°F) 梱包時: -20°C ~ 60°C (-4°F ~ 140°F)	21°C ~ 23°C (70°F ~ 74°F)
相対湿度*	20~80%相対湿度	~ 93% 相対湿度	45 ~ 50% 相対湿度
高度制限†	3,000 m (10,000 ft)	12,000 m (40,000 ft)	
温度条件	5°C ~ 32°C (41°F ~ 89.6°F): 海拔 0 ~ 1500 m (4921 ft) 未満設置時 5°C ~ 30°C (41°F ~ 86°F): 海拔 1500 m (4921 ft) ~ 2000 m (6562 ft) 未満設置時 5°C ~ 28°C (41°F ~ 82.4°F): 海拔 2000 m (6562 ft) ~ 2500 m (8202 ft) 未満設置時 5°C ~ 26°C (41°F ~ 78.8°F): 海拔 2500 m (8202 ft) ~ 3000 m (9843 ft) 以下設置時		

* 温湿度条件によらず、結露しないことを前提としています。

† 高度はいずれも海拔で示しています。

静電気防止に関する注意事項



注意 – FRU を扱う場合は、事前に静電防止用リストストラップの留め具と静電気防止用マットを筐体の接地ポートに接続し、リストストラップのベルトを一方の手首に装着する必要があります。設置の前に、リストストラップを装着した状態でアースされた静電気防止用マットに FRU を置いて、FRU から静電気を除去する必要があります。静電気を除去しなかった場合、重大な損傷が生じる可能性があります。

FRU を扱う場合は、『SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバサービスマニュアル』の次の章に示す注意事項を参照してください。

- 第 6 章: 「CPU/メモリーボードユニット (CMU) および CPU と DIMM の交換」
 - 第 7 章: 「I/O ユニット (IOU) の交換」
-



注意 – 静電防止用リストストラップを装着しないまま、CMU、IOU、ダミーユニットに触れないでください。装着しないまま触れた場合、運用中のドメインが重大な損傷を受ける可能性があります。

静電気を除去する方法

この項では、静電気を除去する方法を示します。

1. 静電気防止用マットをサーバーの接地ポートに接続します。28 ページの「[接地ポートの接続位置](#)」を参照してください。
-

注 – FRU を扱う場合は、アースされた静電気防止用マットの代わりに静電気防止袋や梱包材を使用しないでください。

2. 静電防止用リストストラップの留め具をサーバーの接地ポートに接続します。[28 ページの「接地ポートの接続位置」](#)を参照してください。
3. リストストラップ内側の金属部分が肌に直接触れるようにする必要があります。リストストラップは手首にしっかりと固定し、回転しないようにします。

図 2-1 静電防止用リストストラップ内側の金属部分



- FRU を取り付けるには、アースされた静電防止用マットの上に FRU を置きます。静電防止用リストストラップを装着した状態で、素手で 5 秒以上 FRU 金属シャーシ部分に触れます。

FRU に触れるときには、ユニットのエッジ部分にあるコネクタなどの部品を壊さないように注意してください。



注意 – 静電防止用リストストラップを装着しないまま、CMU、IOU、ダミーユニットに触れないでください。装着しないまま触れた場合、運用中のドメインが重大な損傷を受ける可能性があります。

CMU および IOU の静電気の除去

- 新しい CMU または IOU を取り付ける前に、アースされた静電防止用マットの上に置きます。
- 静電防止用リストストラップを装着した状態で、素手で 5 秒以上金属シャーシ部分に触れます。(図 2-2 または 図 2-3 を参照)。
ラベル部分に触れても、静電気を除去することはできません。

図 2-2 金属シャーシ部分 (CMU)

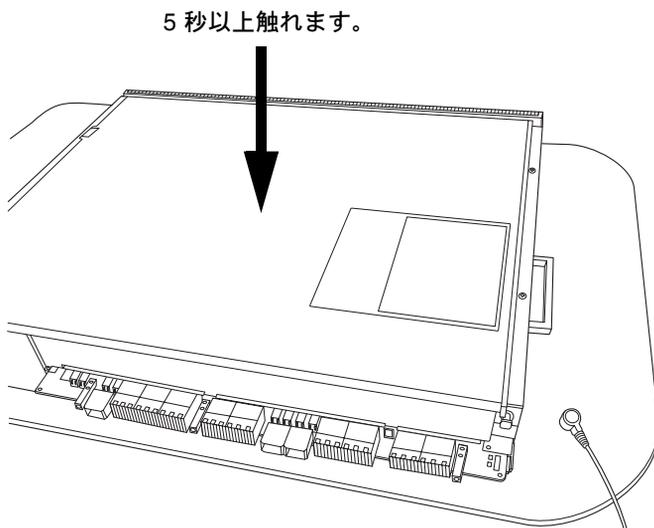
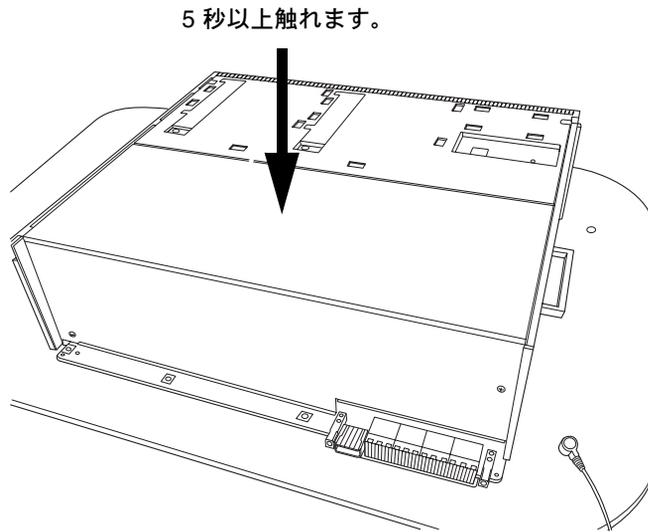


図 2-3 金属シャーシ部分 (IOU)



- c. 静電防止用リストストラップを装着した状態で、素手で 5 秒以上ガイドブ
ロックのそれぞれ指定された場所に触れます。(図 2-4 または図 2-5 を参照)。

図 2-4 ガイドブロック (CMU)

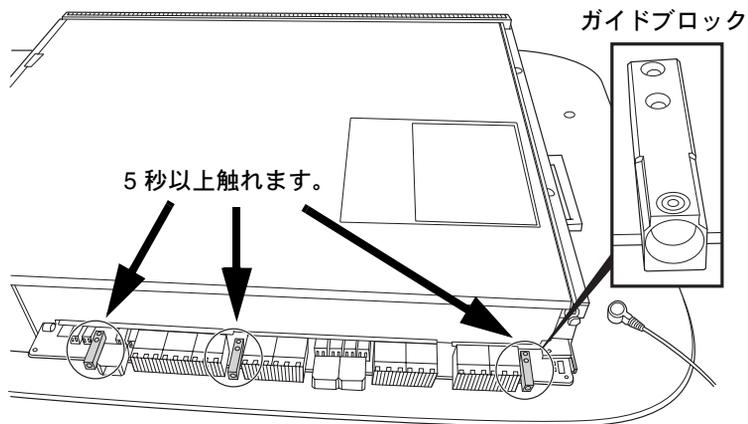
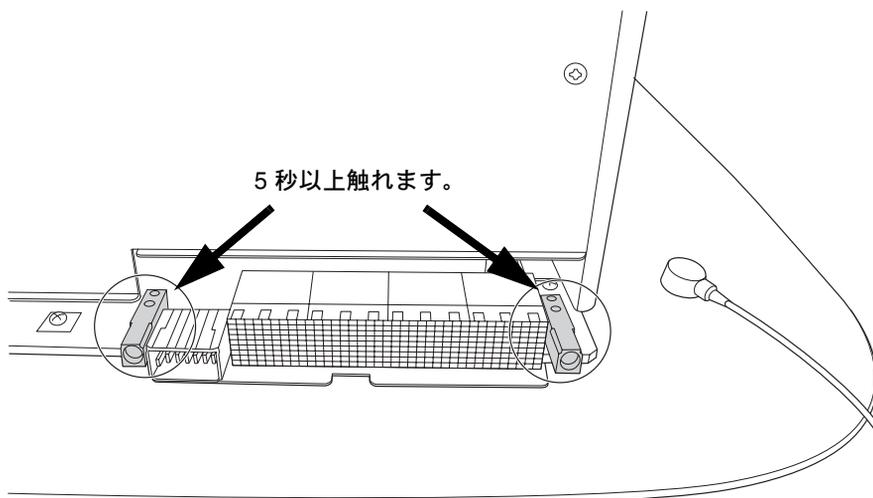


図 2-5 ガイドブロック (IOU)



接地ポートの接続位置

この項では、M8000/M9000 サーバーの接地ポートの接続位置を示します。

接地ポートは、静電防止用リストストラップの留め具と静電気防止用マットを接続するために使用できます。

図 2-6 リストストラップの留め具および静電気防止用マットを接続する M8000 の接地ポートの位置 (正面図)

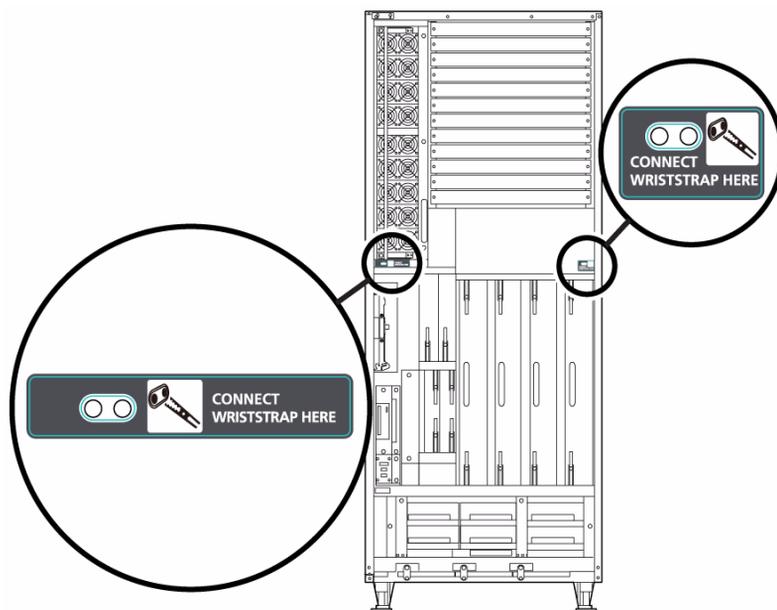


図 2-7 リストストラップの留め具および静電気防止用マットを接続する M8000 の接地ポートの位置 (背面図)

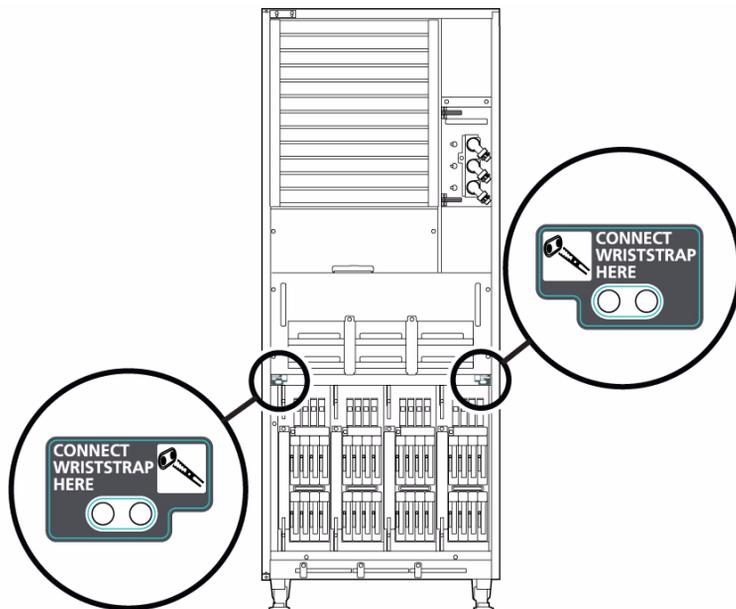


図 2-8 リストストラップの留め具および静電気防止用マットを接続する M9000 の接地ポートの位置 (正面図)

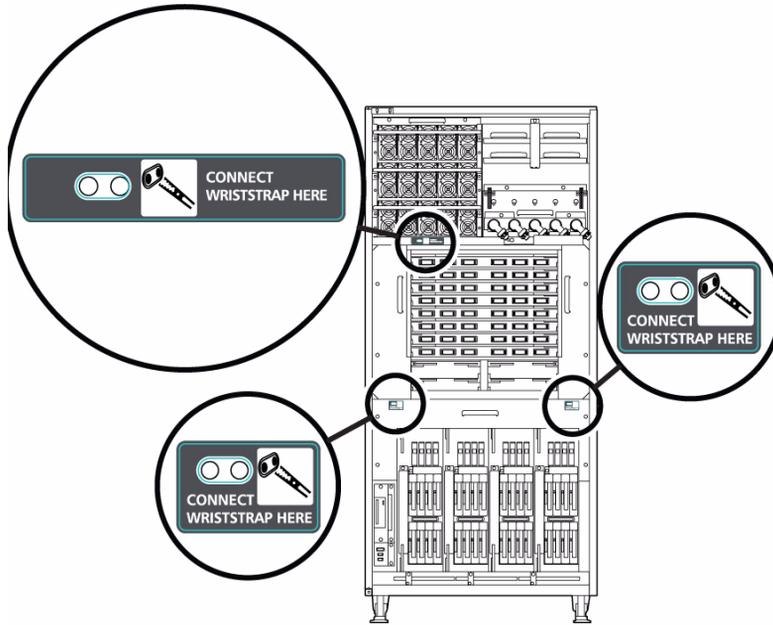
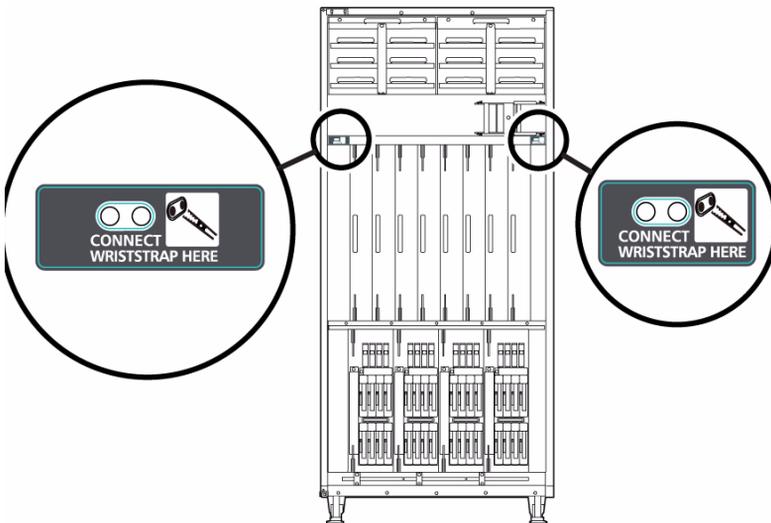


図 2-9 リストストラップの留め具および静電気防止用マットを接続する M9000 の接地ポートの位置 (背面図)



外形寸法と重量

『Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ設置計画マニュアル』の 1.2.1.2 項にある表を次の表 2-3 の情報で更新します。この表は、Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバの筐体の外形寸法および重量を示しています。

表 2-3 設置諸元 (外形寸法と重量)

品名	外形寸法 [mm (インチ)]				重量 [kg]
	幅	奥行	高さ		
SPARC Enterprise M8000 サーバ	750 (29.5)	1260 (49.6)	1800 (70.9)	700*	
M8000 + 電源筐体	1054 (41.5)	1260 (49.6)	1800 (70.9)	1020	
SPARC Enterprise M9000 サーバ (基本筐体)	850 (33.5)	1260 (49.6)	1800 (70.9)	940	
M9000 (基本筐体) + 電源筐体	1154 (45.4)	1260 (49.6)	1800 (70.9)	1290	
M9000 (基本筐体 + 拡張筐体)	1674 (65.9)	1260 (49.6)	1800 (70.9)	1880†	
M9000 (基本筐体 + 拡張筐体) + 電源筐体	2282 (89.8)	1260 (49.6)	1800 (70.9)	2580	
ラックマウント可能な二系統受電 機構	489 (19.3)	1003 (39.5)	278 (10.9) [6U]	75‡	
電源筐体	317 (12.5)	1244 (49.0)	1800 (70.9)	350**	

* この表に記載した重量は、フル実装の本体装置 (CMU、IOU、PCI、および DIMM のすべてのスロットに装着済み) の場合を示しています。この重量には、PCI ボックスなどのオプションハードウェアの重量は含まれていません。

† 基本筐体と拡張筐体を組み合わせる場合、それぞれの筐体の幅は 837 mm です (外側の側面パネルを含む)。

‡ ラックマウント可能な二系統受電機構は、19 インチラックにのみ搭載できます。

** 電源筐体の幅には、外側の側面パネルが含まれています。

冷却 (空調) 条件

『Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ設置計画マニュアル』の 3.2.1 「諸元 (冷却/空調条件)」の表を次の表 2-4 の情報で更新します。この表には、各システムコンポーネントの冷却および空調に関する条件が示されています。

表 2-4 諸元 (冷却/空調条件)

品名	発熱量 [kJ/h]	排気量 [cmh(m ³ /h)]	冷却方法	空調条件	騒音値 [dBA]
SPARC Enterprise M8000 サーバ	13968- 37764 *	94	床上/床下	強制冷却	67
SPARC Enterprise M9000 サーバ (基本筐体)	22320- 71532 *	102	床上/床下	強制冷却	68
SPARC Enterprise M9000 サーバ (基本筐体 + 拡張筐体)	42912- 142956 *	205	床下 †	強制冷却	69
ラックマウント可能な二系統 受電機構	- †	- †	床上/床下	強制冷却	- †
電源筐体 (SPARC Enterprise M8000 サーバ)	- †	- †	床上/床下	強制冷却	- †
電源筐体 (SPARC Enterprise M9000 サーバ基本筐体の場合)	- †	- †	床上/床下	強制冷却	- †
電源筐体 (SPARC Enterprise M9000 サーバ基本筐体 + 拡張 筐体の場合)	- †	- †	床下 †	強制冷却	- †

* 発熱量は消費電力により異なります。実際のシステム構成に即した消費電力決定後に正確な値をご確認ください。

† 電源筐体の発熱量、排気量、および騒音値は、SPARC Enterprise M8000 サーバーまたは SPARC Enterprise M9000 サーバーの値に含まれています。

‡ 海拔 0 ~ 400 m (1312 ft) 未満に設置する場合は、本体装置の冷却方法として床上冷却を選択できます。

電気仕様

『Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ設置計画マニュアル』の 3.3 項を次の表で更新します。

表 2-5 諸元 * (単相電源条件)

名称	消費電力 [kW]	皮相電力 [kVA]
SPARC Enterprise M8000 サーバ	3.88-10.49	4.11-11.12
SPARC Enterprise M9000 サーバ (基本筐体)	6.20-19.87	6.58-21.07
SPARC Enterprise M9000 サーバ (基本筐体 + 拡張筐体)	11.92-39.72	12.64-42.13

* 最大消費電力および皮相電力の値は、搭載されている CPU の種類によって異なります。異なる CPU を本体装置に混在搭載している場合は、CPU の消費電力が大きい方を基準にして設置計画を行ってください。CPU の種類については、『Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ設置計画マニュアル』の 3.3.6 「CPU の種類とサーバの最大消費電力」を参照してください。

表 2-6 諸元 * (三相デルタ電源条件)

名称	消費電力 [kW]	皮相電力 [kVA]
SPARC Enterprise M8000 サーバ + 電源筐体	3.88-10.49	4.11-11.12
SPARC Enterprise M9000 サーバ 基本筐体 + 電源筐体	6.20-19.87	6.58-21.07
SPARC Enterprise 9000 サーバ (基本筐体+拡張筐体) + 電源筐体	11.92-39.72	12.64-42.13

* 最大消費電力および皮相電力の値は、搭載されている CPU の種類によって異なります。異なる CPU を本体装置に混在搭載している場合は、CPU の消費電力が大きい方を基準にして設置計画を行ってください。CPU の種類については、『Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ設置計画マニュアル』の 3.3.6 「CPU の種類とサーバの最大消費電力」を参照してください。

表 2-7 諸元 * (三相スター電源条件)

名称	消費電力 [kW]	皮相電力 [kVA]
SPARC Enterprise M8000 サーバ + 電源筐体	3.88-10.49	4.11-11.12
SPARC Enterprise M9000 サーバ 基本筐体 + 電源筐体	6.20-19.87	6.58-21.07
SPARC Enterprise 9000 サーバ (基本筐体 + 拡張筐体) + 電源筐体	11.92-39.72	12.64-42.13

* 最大消費電力および皮相電力の値は、搭載されている CPU の種類によって異なります。異なる CPU を本体装置に混在搭載している場合は、CPU の消費電力が大きい方を基準にして設置計画を行ってください。CPU の種類については、『Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ設置計画マニュアル』の 3.3.6 「CPU の種類とサーバの最大消費電力」を参照してください。

CPU の種類とサーバーの最大消費電力

『Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ設置計画マニュアル』の 3.3.6 「CPU の種類とサーバの最大消費電力」の情報を次の情報 (次の表を含む) で更新します。

ここでは、CPU の種類と本体装置の最大消費電力について説明します。CPU の種類は 4 種類あります。SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバは、CPU の種類とシステムの構成によって電源条件が異なります。

次の表は、CPU の種類ごとに最大消費電力、皮相電力、および発熱量の仕様を示したものです。各表の下に記載されているシステム構成において、すべての CPU/メモリボードユニット (CMU) に同一の CPU を搭載した場合の数値を示しています。

表 2-8 M8000 サーバの CPU の種類および電源条件*

CPU	周波数 (GHz)	個数	消費電力 (KW)	皮相電力 (kVA)	発熱量 (kJ/h)
SPARC64 VI プロセッサ	2.28	16	9.42	9.99	33912
	2.4	16	9.52	10.09	34272
SPARC64 VII プロセッサ	2.52	16	10.07	10.68	36252
	2.88	16	10.49	11.12	37764

* M8000 システムの構成: CMU x 4、4GB DIMM x 128、IOU x 4、HDD x 16、PCI-E x 32、DAT x1。

表 2-9 M9000 サーバ (基本筐体) の CPU の種類および電源条件*

CPU	周波数 (GHz)	個数	消費電力 (KW)	皮相電力 (kVA)	発熱量 (kJ/h)
SPARC64 VI プロセッサ	2.28	32	18.06	19.16	65016
	2.4	32	18.26	19.37	65736
SPARC64 VII プロセッサ	2.52	32	19.36	20.54	69696
	2.88	32	19.87	21.07	71532

* M9000 (基本筐体) システムの構成: CMU x 4、4GB DIMM x 128、IOU x 4、HDD x 16、PCI-E x 32、DAT x1。

表 2-10 M9000 サーバ (基本筐体 + 拡張筐体) の CPU の種類および電源条件*

CPU	周波数 (GHz)	個数	消費電力 (KW)	皮相電力 (kVA)	発熱量 (kJ/h)
SPARC64 VI プロセッサ	2.28	64	36.11	38.30	129996
	2.4	64	36.51	38.73	131436
SPARC64 VII プロセッサ	2.52	64	38.71	41.06	139356
	2.88	64	39.72	42.13	142992

* M9000 (基本筐体 + 拡張筐体) システムの構成: CMU x 16、4GB DIMM x 512、IOU x 16、HDD x 64、PCI-E x 128、DAT x2。

電気仕様

『Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ製品概要』の 1.2.2 項を次の情報 (次の表を含む) で更新します。この表は、ある特定の構成およびプログラム負荷における消費電力の例です。システムの消費電力は、システムの構成や動作中のプログラムの特性、周囲温度によって変化します。

表 2-11 消費電力の例

アイテム	M8000	M9000	
		基本筐体のみ	基本筐体 + 拡張筐体
環境温度	25°C	25°C	25°C
構成*	CMU: 2.52GHz CPU x 4, 4GB DIMM x 32	4	8
	IOU: 73GB HDD x 4, PCIe カード x 8	4	8
消費電力†	7.48 kW	14.64 kW	29.96 kW

* 消費電力 10W の PCIe カードが搭載されています。

† これらの消費電力は一例です。ご使用の本体装置の作業負荷特性によっては、より高い消費電力値が確認される場合があります。

第3章

ソフトウェアに関する情報

ここでは、特定のソフトウェアとファームウェアの問題とその回避方法について説明します。ここでは、次の内容について説明します。

- 37 ページの「XCPの問題と回避方法」
- 38 ページの「Solaris OS に関する問題と回避方法」
- 54 ページの「ドキュメントの変更予定」

パッチを入手する方法、およびこれらの問題を修正するパッチが入手可能かどうかを確認する方法については、次のウェブサイトアクセスしてください。

<http://sunsolve.sun.com>

XCPの問題と回避方法

この項では、XCP 1092 リリースにおける XCP に関する既知の問題を示します。XCP 1090 または 1091 ファームウェアを使用している場合は、『Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバプロダクトノート』のこの項で、該当するファームウェアバージョンに関する情報を参照してください。

表 3-1 に、XCP の問題と実行可能な回避方法を示します。

表 3-1 XCP の問題と回避方法

ID	説明	回避方法
6789066	settimezone -c adddst コマンドで、タイムゾーンの短縮形およびサマータイムの名前を 8 文字以上に設定すると、showlogs コマンドの実行時にセグメンテーションの障害が発生し、エラーになります。	タイムゾーンの短縮形およびサマータイムの名前は、7 文字以下で指定します。

Solaris OS に関する問題と回避方法

この項では、Solaris OS に関する問題について説明します。次の表に、Solaris OS で発生する可能性のある問題を使用リリース別に示します。

サポートされているすべてのリリースの Solaris OS に関する問題

すべてのリリースの Solaris OS で発生しうる問題を、表 3-2 に示します。ドメインが最新の Solaris リリースを実行していない場合は、使用中のリリースよりも新しいリリースで修正されている CR (以降の各表を参照) にも留意してください。

表 3-2 サポートされているリリースすべての Solaris OS に関する問題と回避方法 (1/4)

CR ID	説明	回避方法
4816837	中断状態で SP DR のパラレルホットプラグ操作を実行したときに、システムがハングします。	回避方法はありません。
6459540	M4000/M5000/M8000/M9000 サーバに接続された DAT72 内蔵テープドライブユニットが、テープの処理中にタイムアウトすることがあります。 またデバイスは、システムに QIC ドライブとして識別されることもあります。	以下の定義を、/kernel/drv/st.conf に追加してください。 tape-config-list= "SEAGATE DAT DAT72-000", "SEAGATE_DAT DAT72-000", "SEAGATE_DAT DAT72-000"; SEAGATE_DAT DAT72-000= 1,0x34,0,0x9639,4,0x00,0x8c,0x8c, 0x8c,3; SEAGATE DAT と DAT72-000 の間には半角スペースが 4 つ必要です。
6522017	ZFS ファイルシステムを使用しているドメインは、DR を使用できません。	ZFS ARC の最大サイズを小さくしてください。詳細については、当社技術員にお問い合わせください。
6531036	boot net によるインストール後に、エラーメッセージ network initialization failed が繰り返し表示されます。	回避方法はありません。

表 3-2 サポートされているリリースすべての Solaris OS に関する問題と回避方法 (2/4)

CR ID	説明	回避方法
6532215	ドメインのブート時に volfs や dscp サービスの起動が失敗することがあります。	サービスを再起動してください。この問題を事前に回避する場合は、以下のコマンドを実行してください。 <pre># svccfg -s dscp setprop \ start/timeout_seconds=count: 300 # svccfg -s volfs setprop \ start/timeout_seconds=count: 300 # svcadm refresh dscp # svcadm refresh volfs</pre>
6588650	M4000/M5000/M8000/M9000 サーバーで、バックアップ XSCF との間の XSCF のフェイルオーバー後に DR 操作ができない場合があります。	回避方法はありません。
6589644	addboard コマンドでシステムボードが追加された後、M8000/M9000 サーバ上で XSCF の切り替えが発生したときに、コンソールが認識されなくなります。	コンソールは、Ctrl-q (「Ctrl」キーと「q」キー) を押すことで復旧できます。
6592302	DR 操作が失敗すると、メモリが一部未設定のままになります。	addboard -d コマンドを使用してボードをドメインに戻すことによって、復旧できる場合があります。復旧できない場合は、deleteboard(8) を再実行してください。

表 3-2 サポートされているリリースすべての Solaris OS に関する問題と回避方法 (3/4)

CR ID	説明	回避方法
6660168	<p>ドメイン上で <code>ubc.piowbeue-cpu</code> エラーが発生すると Solaris Fault Management <code>cpumem-diagnosis</code> モジュールが失敗し、FMA サービスが停止することがあります。これが発生すると、コンソールログに以下の例のように出力されます。</p> <pre>SUNW-MSG-ID: FMD-8000-2K, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Fri Apr 4 21:41:57 PDT 2008 PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise, CSN: 2020642002, HOSTNAME: <hostname> SOURCE: fmd-self-diagnosis, REV: 1.0 EVENT-ID: 6b2e15d7-aa65-6bcc-bcb1-cb03a7dd77e3 DESC: A Solaris Fault Manager component has experienced an error that required the module to be disabled. Refer to http://sun.com/msg/FMD-8000-2K for more information. AUTO-RESPONSE: The module has been disabled. Events destined for the module will be saved for manual diagnosis. IMPACT: Automated diagnosis and response for subsequent events associated with this module will not occur. REC-ACTION: Use <code>fmdump -v -u <EVENT -ID></code> to locate the module. Use <code>fmadm reset <module></code> to reset the module.</pre>	<p>fmd サービスが停止した場合は、復旧させるために、ドメイン上で以下のコマンドを実行してください。</p> <pre># svcadm clear fmd</pre> <p>その後、<code>cpumem-diagnosis</code> を再起動します。</p> <pre># fmadm restart cpumem-diagnosis</pre>
6668237	<p>DIMM を交換しても、該当する DIMM の故障がドメインから消去されません。</p>	<p>以下のコマンドを実行してください。</p> <pre># fmadm repair fmri uuid # fmadm rotate</pre>
6674266 および 6611966	<p>DR <code>deleteboard(8)</code> および <code>moveboard(8)</code> 操作が失敗することがあります。ドメインに表示されるメッセージの例を次に示します。</p> <pre>drmach: WARNING: Device driver failure: /pci dcs: <xxxx> config_change_state: Hardware specific failure: unconfigure SB1: Device driver failure: /pci</pre>	<p>DR 操作を再実行してください。</p>

表 3-2 サポートされているリリースすべての Solaris OS に関する問題と回避方法 (4/4)

CR ID	説明	回避方法
6745410	システムをブートしないようにする Kadb オプションが、ブートプログラムで無視されます。	kadb の代わりに kmdb を使用してください。
6794630	2TB よりも大きいドメインに GUI を使用して Solaris をインストールしようとすると、失敗する場合があります。	コマンドラインインターフェースを使用して Solaris をインストールしてください。
6872501	XSCF によって要求された場合、コアがオフラインになりません。	サービスプロセッサ上で、-v オプションを指定して fmdump(1M) を使用し、障害のあるコアを識別します。識別した後、ドメインで psradm(8) を使用してコアをオフラインにします。
6888928	IPMP インターフェースで、プローブパケットがそのインターフェースを通じて送信されていない場合に問題が発生します。問題が発生するのは、M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバで Solaris 10 10/09 OS および IPMP を実行している場合、またはパッチ 141444-09 がインストールされたいずれかの Solaris リリースで IPMP を実行している場合です。	プローブベースの障害検出を無効にします。InfoDoc 211105 (86869) を参照してください。

Solaris 10 10/09 で修正された Solaris の問題

表 3-3 に、Solaris 10 10/09 OS で修正された問題を示します。これより前のリリースでは、これらの問題が発生する可能性があります。

表 3-3 Solaris 10 10/09 で修正された Solaris OSの問題と回避方法

CR ID	説明	回避方法
6572827	<code>prtdiag -v</code> コマンドで PCI バスのタイプが間違っていて出力されます。PCI-X リーフデバイスが「PCI」、レガシー PCI デバイスが「UNKN」と表示されます。	回避方法はありません。
6724307	スケジューラの決定が不均衡になる場合があります。 あるコア上に 2 つのスレッド (両方ともほぼ半分の速度で動作します) が存在し、同時に別のコアがアイドルになっていることがあります。多くの OpenMP および類似のパラレルアプリケーションでは、アプリケーションのパフォーマンスが、最も遅いスレッドの速度に制限されます。 不均衡なスケジューリングは一般的ではありません (50 の決定に 1 つまたは 100 の決定に 1 つ程度になると考えられます)。ただし、128 のスレッドが動作している場合、アプリケーションには不均衡なスケジューリングイベントが 1 つ以上存在する可能性があります。	プロセッサセットを使用して、コア割り当てに対する不均衡なスレッドを防止してください。
6800734	ドメインで <code>deleteboard</code> がハングします。	回避方法はありません。
6821108	DR および <code>showdevices</code> が、XSCF のレポート後に動作しません。	XSCF サービスプロセッサを 2 回リブートします。最初のレポートで SA の半数が削除され、2 回目で残りの半数が削除されます。2 回目の追加は成功して、IPSec 通信が再確立されます。
6827340	SCF コマンドのエラーによって、DR およびメモリ巡回に失敗することがあります。	回避方法はありません。

Solaris 10 5/09 で修正された Solaris の問題

表 3-4 に、Solaris 10 5/09 OS で修正された問題を示します。これより前のリリースでは、これらの問題が発生する可能性があります。

表 3-4 Solaris 10 5/09 で修正された Solaris OS の問題と回避方法

CR ID	説明	回避方法
6588555	カーネルメモリで DR 操作中に XSCF をリセットすると、ドメインがパニックすることがあります。	DR 操作の進行中は、XSCF リセットを起動しないでください。DR 操作が完了するのを待ってから、リセットを開始します。
6623226	Solaris コマンドの lockstat(1M) または dtrace lockstat プロバイダで、システムパニックが発生することがあります。	Solaris の lockstat(1M) コマンドおよび dtrace lockstat プロバイダを使用しないでください。
6680733	負荷が高い状況で、Sun Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP (QGC) および Sun Dual 10 GigE Fiber XFP Low Profile Adapter (XGF) NIC がパニックすることがあります。	可能な場合は、カードを x8 スロットで使用します。このように構成できない場合、回避方法はありません。
6689757	単一の XFP 光トランシーバまたは正しく取り付けられていない XFP 光トランシーバで Sun Dual 10 GigE Fiber XFP Low Profile Adapter (XGF) を使用すると、次のエラーがコンソールに表示されることがあります。 The XFP optical transceiver is broken or missing.	両方の XFP 光トランシーバが筐体にしっかりと装着されていることを確認してください。 INTEL と Sun の XFP 光トランシーバを同じアダプターに混在させないでください。 ポートに XFP 光トランシーバが含まれていない場合、またはポートに XFP 光トランシーバが含まれていても未使用の場合は、ifconfig コマンドでポートを精査しないでください。

Solaris 10 10/08 で修正された Solaris の問題

表 3-5 に、Solaris 10 10/08 OS で修正された問題を示します。これより前のリリースでは、これらの問題が発生する可能性があります。

表 3-5 Solaris 10 10/08 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (1/3)

CR ID	説明	回避方法
6511374	エラーが多すぎてメモリバンクが無効になった場合は、ブート中にメモリ変換の警告メッセージが表示されることがあります。	システムのリブート後に、 <code>fmadm repair</code> コマンドを使用して、次回ブート時に問題が再現しないようにできます。
6533686	XSCF でシステムリソースが不足している場合、カーネルメモリを移動する DR <code>deleteboard</code> または <code>moveboard</code> 操作が、次に示す 1 つ以上のエラーで失敗することがあります。 <code>SCF busy</code> <code>DR parallel copy timeout</code> この問題が発生するのは、マルチドメインのホストである Quad-XSB 構成のシステムボードだけです。	後で、DR 操作を再実行してください。
6535018	SPARC64 VII プロセッサを搭載した Solaris ドメインでは、スレッド数を 256 超の値に増やしても、Solaris カーネルの使用負荷が予想どおりに上がらないことがあります。	SPARC64 VII プロセッサを搭載した Solaris ドメインでは、ドメインを最大 256 スレッドに制限してください。
6556742	DR 操作中に DiskSuite が <code>metadb</code> を読み取ることができないと、システムがパニックします。このバグは次のカードに影響します。 <ul style="list-style-type: none">SG-XPCIE2FC-QF4, 4-Gigabit PCI-e Dual-Port Fiber Channel HBASG-XPCIE1FC-QF4, 4-Gigabit PCI-e Single-Port Fiber Channel HBASG-XPCI2FC-QF4, 4-Gigabit PCI-X Dual-Port Fiber Channel HBASG-XPCI1FC-QF4, 4-Gigabit PCI-X Single-Port Fiber Channel HBA	<code>metadb</code> の複製コピーに別のホストバスアダプターを介してアクセス可能であれば、パニックは回避できます。

表 3-5 Solaris 10 10/08 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (2/3)

CR ID	説明	回避方法
6589833	<p>SAP プロセスが Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fiber Channel PCI-E HBA カード (SG-XPCIE2FC-QF4) に接続された記憶装置にアクセスしようとしているときにこのカードを追加しようとすると、DR addboard コマンドによりシステムがハングするおそれがあります。ネットワークトラフィックが多い状況で以下のカードを使用していると、システムがハングする危険が大きくなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	<p>回避方法はありません。</p>
6614737	<p>次のいずれかの状況が存在する場合、DR deleteboard(8) および moveboard(8) 操作がハングすることがあります。</p> <p>DIMM が縮退している。</p> <p>ドメインに含まれる各システムボードのメモリサイズがそれぞれ異なっている。</p>	<p>次のいずれかの状況が存在する場合、DR 操作を実行しないようにしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 縮退メモリー – システムに縮退メモリーが含まれているかどうかを確認するには、XSCF コマンド showstatus を使用します。 • 異なるメモリーサイズ – ドメインに含まれる各システムボードのメモリーサイズがそれぞれ異なっているかどうかを確認するには、XSCF コマンド showdevices またはドメインで prtdiag コマンドを使用してメモリーサイズのリストを表示します。 <p>DR コマンドがハングした場合は、復旧させるためにドメインをリポートしてください。</p>
6619224	<p>SPARC 64 VII プロセッサを搭載した Solaris ドメインでは、256 スレッド以上のシングルドメインが、一定の異常状態で長期間にわたってハングすることがあります。復旧時に、uptime コマンドは極端に高い負荷平均を示します。</p>	<p>SPARC 64 VII プロセッサを搭載した Solaris ドメインでは、シングル Solaris ドメインで 256 の仮想プロセッサのドメインサイズを超過しないようにしてください。つまり、シングルドメイン構成で最大 32 CPU になります (M8000 サーバの最大構成)。</p>
6632549	<p>ドメインでの fmd service が、DR 操作後に保守モードの開始に失敗することがあります。</p>	<p>ドメインで次のコマンドを実行します。</p> <pre># svcadm clear fmd</pre>
6660197	<p>次のいずれかの状況が存在する場合、DR によってドメインがハングすることがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ドメインに 256 以上の CPU が含まれている。 • メモリエラーが発生し、DIMM が縮退している。 	<p>次のパラメータをシステム仕様ファイル (/etc/system) に設定します。</p> <pre>set drmach:drmach_disable_mcopy = 1</pre> <p>ドメインをリポートしてください。</p>

表 3-5 Solaris 10 10/08 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (3/3)

CR ID	説明	回避方法
6679370	<p>システムのブート中、ホットプラグを使用した PCI ボックスの追加中、または DR による FMEMA の操作中に、次のメッセージがコンソールに出力されることがあります。</p> <p>SUNW-MSG-ID: SUN4-8000-75, TYPE: Fault, VER: 1, SEVERITY: Critical</p> <p>...</p> <p>DESC:</p> <p>A problem was detected in the PCIExpress subsystem.</p> <p>Refer to http://sun.com/msg/SUN4-8000-75 for more information.</p> <p>...</p>	<p>/etc/system に次の行を追加し、ドメインをリポートしてください。</p> <pre>set pcie_expected_ce_mask = 0x2001</pre>
6720261	<p>ドメインが Solaris 10 5/08 OS を実行している場合、通常の操作中にシステムがパニックまたはトラップすることがあります。</p>	<p>次のパラメータをシステム仕様ファイル (/etc/system) に設定します。</p> <pre>set heaplp_use_stlb=0</pre> <p>その後、ドメインをリポートしてください。</p>

Solaris 10 5/08 で修正された Solaris の問題

表 3-6 に、Solaris 10 5/08 OS で修正された問題を示します。これより前のリリースでは、これらの問題が発生する可能性があります。

表 3-6 Solaris 10 5/08 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (1/4)

CR ID	説明	回避方法
5076574	大規模な M8000/M9000 ドメインでは、PCIe エラーが発生すると障害診断が無効になるおそれがあります。	次の行を含むファイル /etc/fm/fmd/fmd.conf を作成してください。 setprop client.buflim 40m setprop client.memlim 40m
6348554	以下のカードで <code>cfgadm -c disconnect</code> コマンドを使用すると、コマンドがハングアップするおそれがあります。 <ul style="list-style-type: none">• SG-XPCIE2FC-QF4 (Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fiber Channel PCI-E HBA)• SG-XPCIE1FC-QF4 (Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fiber Channel PCI-E HBA)• SG-XPCI2FC-QF4 (Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fiber Channel PCI-X HBA)• SG-XPCI1FC-QF4 (Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fiber Channel PCI-X HBA)	影響を受けるカードでは、 <code>cfgadm -c disconnect</code> 操作を実行しないでください。
6402328	1 つのドメイン内で 6 つを超える IOUA カード (基本 I/O カード) を使用すると、I/O 負荷が高いときにパニックが発生することがあります。	1 つのドメイン内の IOUA の数は、最大で 6 つまでに制限してください。
6472153	M4000/M5000/M8000/M9000 サーバー以外の sun4u サーバー上に Solaris フラッシュアーカイブを作成し、それをこれらのサーバーのいずれかにインストールすると、コンソールの TTY フラグが正しく設定されません。このため、負荷がかかっているときにコンソールに文字が表示されなくなる場合があります。	Solaris フラッシュアーカイブから Solaris OS をインストールした直後に M4000/M5000/M8000/M9000 サーバーに telnet で入り、コンソールの TTY フラグを以下のようにリセットします。 # sttydefs -r console # sttydefs -a console -i "9600 \hupcl opost onlcr crtscts" -f "9600" この作業は 1 回だけ実行してください。
6505921	システム PCIe バスコントローラの修正可能なエラーによって、無効な障害が発生します。	次の行を含むファイル /etc/fm/fmd/fmd.conf を作成してください。 setprop client.buflim 40m setprop client.memlim 40m

表 3-6 Solaris 10 5/08 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (2/4)

CR ID	説明	回避方法
6522433	リブート後の CPU 障害によって、fmdump が正しいマザーボードを識別できないことがあります。	XSCF のシステムステータスを確認してください。
6527811	XSCF 上で showhardconf(8) コマンドを使用すると、PCI ホットプラグを使用して PCI ボックスが設定されていても、PCI ボックスにインストールされている PCI カード情報を表示することができません。	回避方法はありません。PCI ボックス内の各 PCI カードが PCI ホットプラグを使用して設定されている場合は、PCI カード情報は正しく表示されます。
6536564	showlogs(8) および showstatus(8) コマンドが、別の I/O コンポーネントを報告することがあります。	<p>この問題を事前に回避する場合は、ドメインで以下のコマンドを実行してください。</p> <pre># cd /usr/platform/SUNW,SPARCEnterprise \ /lib/fm/topo/plugins # mv ioboard.so ioboard.so.orig # svcadm restart fmd</pre> <p>次のメッセージが表示された場合は、当社技術員までご連絡ください。</p> <pre>SUNW-MSG-ID: SUNOS-8000-1L, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Sun May 6 18:22:24 PDT 2007 PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise, CSN: BE80601007, HOSTNAME: sparc</pre>
6545143	ユーザースタックアドレスの TLB ミスのトラップ処理中にシステムパニックがまれに発生することがあります。この問題は、フラッシュウィンドウトラップ (ta 3) を実行するユーザープロセスと同時に、ユーザースタックの対応付けが解除される場合に発生する可能性があります。パニックメッセージには、次の文字列が含まれています。 bad kernel MMU trap at TL 2	回避方法はありません。
6545685	電源投入自己テスト (POST) で修正可能なメモリエラー (CE) が検出された場合、ドメインは誤って 4DIMM または 8DIMM に縮退することがあります。	<pre>/etc/system</pre> で次のように設定し、使用されるメモリ巡回タイムアウト値を増やしてから、システムをリブートします。 <pre>set mc-opl:mc_max_rewrite_loop = 20000</pre>

表 3-6 Solaris 10 5/08 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (3/4)

CR ID	説明	回避方法
6546188	<p>以下のカード上でホットプラグ (cfgadm) およびDR操作 (addboard および deleteboard) を実行すると、システムがパニックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	回避方法はありません。
6551356	<p>未設定のカードを設定するためにホットプラグ (cfgadm) を実行すると、システムがパニックします。システムがパニックする直前に、「警告:PCI 拡張 ROM にアクセスできません」というメッセージがコンソール上に表示されます。次のカードがこのバグの影響を受けます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	カードを完全に取り外すには、 <code>cfgadm -c disconnect</code> を使用します。10 秒以上待ってから、 <code>cfgadm -c configure</code> コマンドを使用してカードの設定をドメインに戻すことができます。
6559504	<p>以下のカードを使用すると、<code>nxge: NOTICE: nxge_ipp_eccue_valid_check: rd_ptr = nnn wr_ptr = nnn</code> という形式のメッセージがコンソールに表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	このメッセージは無視しても差し支えありません。
6563785	<p>以下のカードでホットプラグ操作を行った場合、カードを切断してその直後に再接続すると、ホットプラグ操作が失敗することがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SG-XPCIE2SCSIU320Z Sun StorageTek PCI-E Dual-Port Ultra320 SCSI HBA • SGXPCI2SCSILM320-Z Sun StorageTek PCI Dual-Port Ultra320 SCSI HBA 	カードを切断した後、数秒待ってから再接続してください。
6564934	<p>以下のネットワークカードを使用しているときにカーネルメモリを搭載したボードに対して DR deleteboard 操作を実行すると、接続が切れます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	DR 操作が完了してから、影響を受けたネットワークインターフェースを再設定してください。基本的なネットワーク設定手順については、 <code>ifconfig</code> のマニュアルページを参照してください。

表 3-6 Solaris 10 5/08 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (4/4)

CR ID	説明	回避方法
6568417	<p>CPU DR deleteboard 操作が正常に終了した後、次のネットワークインターフェースが使用されていると、システムがパニックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	<p>/etc/system に次の行を追加し、システムをリブートしてください。</p> <pre>set ip:ip_soft_rings_cnt=0</pre>
6571370	<p>実験環境でストレス試験を実行した結果、以下のカードでデータ破壊が発生しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	<p>/etc/system に次の行を追加し、システムをリブートしてください。</p> <pre>set nxge:nxge_rx_threshold_hi=0</pre>
6584984	<p>-w を指定して busstat(1M) コマンドを実行すると、M8000/M9000 サーバドメインがリブートされることがあります。</p>	<p>回避方法はありません。-w オプションを指定して busstat(1M) コマンドを pcmu_p で実行しないでください。</p>
6589546	<p>prtdiag は、次のカードのすべての I/O デバイスを表示するわけではありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SG-XPCIE2FC-EM4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fiber Channel PCI-E HBA • SG-XPCIE1FC-EM4 Sun StorageTek Enterprise Class 4-Gigabit Single-Port Fiber Channel PCI-E HBA 	<p>完全出力には prtdiag -v を使用してください。</p>
6663570	<p>最小番号の CPU に関連する DR 操作によって、ドメインでパニックが発生することがあります。</p>	<p>最小の CPU ID を持つ CPU をホストするシステムボードを、DR を使用して取り外さないでください。最小の CPU ID を持つ CPU を識別するには、Solaris prtdiag コマンドを使用します。</p>

Solaris 10 8/07 で修正された Solaris の問題

表 3-7 に、Solaris 10 8/07 OS で修正された問題を示します。これより前のリリースでは、これらの問題が発生する可能性があります。

表 3-7 Solaris 10 8/07 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (1/3)

CR ID	説明	回避方法
6303418	シングルドメインで 11 以上のフル実装システムボードを備える M9000 サーバは、負荷が高い状況でハングすることがあります。	CPU スレッドの数が 170 を超えないようにしてください。 Solaris <code>psradm</code> コマンドを使用して過剰な CPU スレッドを無効にして、CPU スレッドの数を CPU コアあたり 1 つに制限してください。たとえば、奇数の CPU スレッドをすべて無効にします。
6416224	単一の NIC カードの接続数が 5,000 を超えると、システムパフォーマンスが低下することがあります。	複数の NIC カードを使用して、ネットワーク接続を分割してください。
6441349	I/O エラーでシステムがハングすることがあります。	回避方法はありません。
6485555	レースコンディションにより、オンボードの Gigabit Ethernet NVRAM に障害が発生します。このレースコンディションが発生する可能性は、非常に低いものです。	回避方法はありません。
6496337	修正不能なエラー (UE) パニックの発生後、「 <code>cpumem-diagnosis</code> 」モジュールのロードが失敗することがあります。システムは正しく機能しますが、このモジュールを使用する FMA によって通常は自動診断されるイベントが手動診断を要求します。 例: SUNW-MSG-ID: FMD-8000-2K, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Thu Feb 15 15:46:57 JST 2007 PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise, CSN: BE80601007, HOSTNAME: col2-ffem7-d0	問題がすでに発生している場合は、次の回避方法に従います。次のセグメントの内容を含む回避方法: 1. <code>cpumemdiagnosis</code> ファイルを削除してください。 <code># rm /var/fm/fmd/ckpt/cpumemdiagnosis \</code> <code>/cpumem-diagnosis</code> 2. <code>fmd</code> サービスを再起動してください。 <code># svcadm restart fmd</code> この問題を事前に回避するには、ファイル <code>/lib/svc/method/svc-dumpadm</code> に次の行を追加します。 <code>#</code> <code>savedev=none</code> <code>rm -f /var/fm/fmd/ckpt/cpumemdiagnosis \</code> <code>/cpumem-diagnosis</code> <code>#</code>

表 3-7 Solaris 10 8/07 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (2/3)

CR ID	説明	回避方法
6495303	PCIe Dual-Port Ultra320 SCSI コントローラカード (SG- (X) PCIE2SCSIU320Z) を SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバの IOU スロット 1 で使用すると、システムパニックが発生することがあります。	このカードを IOU スロット 1 で使用しないでください。
6498283	ドメインで psradm 操作の実行中に、DR コマンド deleteboard を使用すると、システムパニックが発生することがあります。	回避方法はありません。
6499304	予期しないメッセージがコンソールに表示され、修正可能なエラー (CE) が多数発生しても CPU はオフラインになりません。 例: SUNW-MSG-ID: FMD-8000-11, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Fri Feb 2 18:31:07 JST 2007 PLATFORM: SPARC-Enterprise, CSN: BE80601035, HOSTNAME: FF2-35-0	XSCF の CPU ステータスを確認してください。
6502204	CPU UE パニックの発生後のブート時に、予期しないエラーメッセージがコンソールに表示されることがあります。 例: SUNW-MSG-ID: FMD-8000-11, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Tue Jan 9 20:45:08 JST 2007 PLATFORM: SUNW, SPARC-Enterprise, CSN: 2030636002, HOSTNAME: P2-DC1-16-d0	予期しないメッセージが表示された場合は、showdomainstatus(8) コマンドを使用して、XSCF のシステムステータスを確認してください。
6502750	増設または減設されたホットプラグの PCI カードが通知メッセージを出力しないことがあります。	回避方法はありません。
6508432	PCIe の偽の修正可能なエラーが FMA エラーログに多数記録されることがあります。	これらのエラーをマスクするには、次のエントリを /etc/system に追加し、システムをリブートしてください。 set pcie:pcie_aer_ce_mask = 0x2001
6508434	PCI ホットプラグを使用して PCI-X カードを増設または交換すると、ドメインがパニックすることがあります。	PCI ホットプラグを使用して、異なるタイプの PCI-X カードを同じ PCI スロットに増設しないでください。
6510861	PCIe Dual-Port Ultra320 SCSI コントローラカード (SG- (X) PCIE2SCSIU320Z) を使用しているとき、PCIe の修正可能なエラーによって Solaris のパニックが発生します。	この問題を回避するには、次のエントリを /etc/system に追加してください。 set pcie:pcie_aer_ce_mask = 0x31c1

表 3-7 Solaris 10 8/07 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (3/3)

CR ID	説明	回避方法
6520990	ドメインがリポートしたとき、SCF が同じ物理ボードを共有している他のドメインにサービスを提供できないことがあります。DR 操作がデフォルトのタイムアウト時間を超え、パニックが発生する可能性があります。	次の記述を <code>/etc/system</code> に設定して DR タイムアウト時間を大きくし、システムをリポートします。: <pre>set drmach:fmem_timeout = 30</pre>
6527781	2 つのドメイン間で DVD/DAT ドライブを移動中に、 <code>cfgadm</code> コマンドが失敗します。	回避方法はありません。DVD/テープドライブユニットを再構成するには、問題が発生しているドメインから <code>reboot -r</code> を実行してください。
6530178	DR <code>addboard</code> コマンドがハングすることがあります。問題が検出されると、それ以上の DR 操作はブロックされます。復旧にはドメインのリポートが必要です。	回避方法はありません。
6530288	<code>cfgadm(1M)</code> コマンドが <code>Ap_Id</code> フォーマットを正しく表示しないことがあります。	回避方法はありません。
6534471	通常の操作中に、システムがパニックまたはトラップすることがあります。	カーネルの大きなページの TLB プログラミングを無効にしてください。 <code>/etc/system</code> ファイルで、 <code>heaplp_use_stlb</code> 変数を 0 に変更してください。 <pre>set heaplp_use_stlb=0</pre>
6535564	DR によって追加された XSB で、PCI スロット #0、#1、または PCI ボックスに対する PCI ホットプラグが失敗することがあります。	XSB の PCI カードを増設または減設する必要がある場合は、PCI ホットプラグの代わりに DR を使用してください。
6539084	ドメインに Sun Quad GbE UTP x8 PCIe (X4447A-Z) カードが存在する場合、リポート中にドメインのパニックがまれに発生することがあります。	
6539909	<code>boot net install</code> コマンドを使用して Solaris OS をインストールしているとき、ネットワークアクセスに次の I/O カードが使用されません。 <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z/X4447A-Z, PCIe Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z/X1027A-Z, PCIe Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP 	代替タイプのネットワークカードまたはオンボードのネットワークデバイスを使用し、ネットワーク経由で Solaris OS をインストールしてください。
6542632	ドライバ接続に失敗すると、PCIe モジュールにメモリーリークが発生します。	回避方法はありません。

ドキュメントの変更予定

この項では、ドキュメントの出版後に判明した最新情報、またはごく最近に追加された最新情報を示します。

注 - オンラインのマニュアルページは、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF リファレンスマニュアル』よりも頻繁に更新されます。

『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF リファレンスマニュアル』

次の変更は、2009 年 8 月に発行されたこのドキュメントの XCP 1090 版には反映されていません。

表 3-8 XSCF リファレンスマニュアル (1/3)

マニュアルページ	変更内容
Advanced Directory および LDAP/SSL マニュアルページ	setad(8)、setldapssl(8)、showad(8)、および showldapssl(8) の各機能に関連する 4 つの新しいマニュアルページが追加されました。man(1) コマンドを使用すると、これらのマニュアルページをオンラインで参照できます。
adduser(8)	次の情報が追加されました。「ユーザーアカウントデータに Lightweight Directory Access Protocol (LDAP)、Active Directory、または LDAP/SSL を使用するようにサービスプロセッサで設定されている場合、ユーザー名と UID (指定されている場合) は、ローカルでまたは LDAP、Active Directory、LDAP/SSL で未使用のものではなければなりません。」
applynetwork(8)	曖昧さを回避するために変更されました。
ioxadm(8)	新しい情報が追加されました。
password(8)	曖昧さを回避するために値の範囲が変更されました。ほとんどが 1 から 999999999 の範囲です。
setdscp(8)	次のテキストが追加されました。 「指定されたネットマスクは、ネットワーククラスを基にした、デフォルトネットマスクのサブセットでなければなりません。」
setdualpowerfeed(8)	次の記述が追加されました。「100V 電源の M4000/M5000 サーバーでは、二系統受電モードを使用できません。」

表 3-8 XSCF リファレンスマニュアル (2/3)

マニュアルページ	変更内容
sethostname(8)	拡張機能説明に情報が追加されました。
sethttps(8)	拡張機能説明に次の内容が追加されました。 「sethttps(8) によって生成されるファイルのサイズは、自己証明書発行局の設定、自己署名付き Web サーバー証明書の作成、および CSR の作成時にオペランドに入力した合計文字数に合わせて大きくなります。生成されたファイルが XSCF に対して大きすぎる場合は、コマンドは失敗してエラーが発生します。このエラーが発生した場合は、オペランドの文字数を減らして sethttps(8) コマンドを再度実行してください。」
setldap(8)	次の内容が追加されました。「XSCF ユーザーアカウントのユーザー名を LDAP ユーザー名と同じ名前にはできず、XSCF ユーザーアカウント番号 (UID) を LDAP UID 番号と同じ番号にはできません。」
setnameserver(8)	<ul style="list-style-type: none"> • オペランドに次の内容が追加されました。 「ループバックアドレス (127.0.0.0/8)、ネットワークアドレス、またはブロードキャストアドレスを指定することはできません。」 • オプションに、次のオプションが追加されました。 指定されたドメイン名を DNS 検索パスに登録する新しいオプション -c addsearch -c delsearch <p>DNS 検索パスの追加に伴い、DNS 検索パスに関する説明が applynetwork(8)、sethostname(8)、および shownameserver(8) に追加されました。詳細については、XCP 1091 リリース以降のこれらのマニュアルページのオンラインバージョンを参照してください。</p>
setnetwork(8)	<p>オプションの -m が変更され、オペランドに次の内容が追加されました。 「ループバックアドレス (127.0.0.0/8)、ネットワークアドレス、ブロードキャストアドレス、クラス D または E (224.0.0.0 - 255.255.255.255) アドレスを指定することはできません。」</p> <p>また、xscf#0-lan#0 および xscf#0-lan#1 に関する情報が追加されました。</p>
setntp(8)	<ul style="list-style-type: none"> • オペランドに次の内容が追加されました。 「ループバックアドレス (127.0.0.0/8)、ネットワークアドレス、またはブロードキャストアドレスを指定することはできません。」 • オプションに XSCF のローカルクロックを設定するための次のオプションが追加されました。 -m localaddr=value <p>クロックアドレスの追加に伴い、ローカルアドレスに関する説明が showntp(8) に追加されます。詳細については、setntp(8) および showntp(8) マニュアルページのオンラインバージョンを参照してください。</p>
setpacketfilters(8)	この新しいマニュアルページは XCP 1092 リリースで追加されました。
setpasswordpolicy(8)	曖昧さを回避するために値の範囲が変更されました。ほとんどが 1 から 999999999 の範囲です。

表 3-8 XSCF リファレンスマニュアル (3/3)

マニュアルページ	変更内容
setroute(8)	<ul style="list-style-type: none"> オプションに次の内容が追加されました。 「ループバックアドレス (127.0.0.0/8)、ネットワークアドレス、またはブロードキャストアドレスを指定することはできません。」 オプションが次のように変更されました。 これまでのテキスト - 「-n オプションで 0.0.0.0 を指定した場合は、-m オプションを指定しないでください。」 新しいテキスト - 「-n オプションで 0.0.0.0 を指定した場合は、-m オプションで 0.0.0.0 を指定するか、-m オプションを省略してください。」
setupfru(8)	<p>拡張機能説明に次の内容が追加されました。 「M8000/M9000 サーバーでは 2 つの CPUM を搭載している CMU を Quad-XSB モードに設定できます。ただし、CPUM およびメモリーが搭載されていない XSB については、「configuration error」メッセージが生成されます。」</p>
setupplatform(8)	<p>次の内容が追加されました。「XSCF ユーザーアカウントのユーザー名を LDAP ユーザー名と同じ名前にすることはできず、XSCF ユーザーアカウント番号 (UID) を LDAP UID 番号と同じ番号にすることはできません。」</p>
showdevices(8)	<p>拡張機能説明に次の内容が追加されました。 「Solaris OS のブートまたは DR 操作の直後に showdevices(8) コマンドを実行すると、デバイスの完全なリストが表示されます。ただし、それ以外のときに、使用されていないデバイスのドライバの読み込みが Solaris OS によって解除されていると、showdevices を実行してもデバイスの完全なリストは表示されません。完全なリストが表示されるようにするには、showdevices を実行する前に、ドメインで -v オプションを指定して devfsadm コマンドを実行します。devfsadm コマンドの詳細については、Solaris の devfsadm(1M) のマニュアルページを参照してください。」</p>
showenvironment(8)	<p>次の情報が追加されました。 「通気量情報は、M4000/M5000 サーバーではサポートされていません。」</p> <p>次のようにテキストが変更されました。 これまでのテキスト - 「M3000/M4000/M5000 サーバーでは消費電力情報が表示されます。」 新しいテキスト - 「M3000 サーバーでは消費電力情報が表示されます。」</p>
showhardconf(8)	<p>使用例に、DC 電源を搭載した M3000 サーバーの例が追加されました。PCI カード情報と -M オプションも追加されています。</p>
showlogs(8)	<p>次の内容が追加されました。 -M オプション、拡張機能説明のステータスおよび詳細ログ/パワーログに関する新しい情報、および電源異常/復旧に対するその他の参照。</p>
showpacketfilters(8)	<p>この新しいマニュアルページは XCP 1092 リリースで追加されました。</p>

『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/ M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド』

このドキュメントの 2009 年 8 月版では、次に示す変更が行われたか、または未変更のままになっています。

表 3-9 ドキュメントの変更予定

項目	変更内容
Active Directory および LDAP/SSL	追加されていません。これらのプロダクトノートの 2 ページの「 Active Directory および LDAP/SSL 」を参照してください。
XSCF ユニット/ファームウェアのアップデート	<p>8.1.10 章では変更されていません。 以下の項の手順 2 と 3 を差し替えてください。</p> <ul style="list-style-type: none">「XSCF ユニートを交換したときに XSCF ファームウェアをアップデートする (XSCF ユニットが 1 つのシステムの場合または XSCF ユニットが二重化構成のシステムで両方を交換した場合)」「マザーボードユニット (MBU) を交換したとき XCP ファームウェアをアップデートする (M3000 サーバの場合)」 <p>次の手順に置き換えます。</p> <ol style="list-style-type: none">交換用のユニットと交換されるユニットのバージョンが異なる場合、メッセージが表示されます。この場合、ファームウェアは自動的にアップデートされません。オペレーターによるファームウェアバージョンの番号合わせが必要です。アップデートを行う場合、「外部媒体から XCP をアップデートする」または「ネットワークから XCP をアップデートする」の手順に従います。アップデートが完了した後、バージョン確認を行います。

